



特集
このまちで生きる

目次

- 03 **特集 このまちで生きる**
～歩んできた10年、そしてこれから歩む未来～
- 20 **市からのお知らせ**
新型コロナウイルスワクチン接種について／地域
おこし協力隊便特別号／市の組織改編について ほか
- 23 **まちの話題**
クウェート国復興支援感謝列車出発式／新聞コン
クール文部科学大臣賞受賞／昭和三陸大津波88周
年追悼／春の市民交流DAY
- 24 **子育て情報**
にこにこルームみやこ／つどいの広場／
4月のハッピーバースデー ほか
- 26 **市からのお知らせ**
野生鳥獣による農作物被害対策への協力 ほか
- 27 **健康プラザ**
健康相談日程 ほか
- 28 **図書館情報**
市立図書館4月の特集 ほか
- 29 **各種相談**
4月の各種無料相談日程 ほか
- 30 **情報掲示板**
公民館・各市民団体などの催し ほか
- 32 **お知らせ**
安庭山荘の今年の営業開始について ほか
- 34 **市からのお知らせ、スタジオから**
- 35 **ふるさと博物館**
北上山地民俗資料館の資料紹介「昔のはき物」
- 36 **まちの話題ピックアップ**
東日本大震災から10年目の追悼

4月の納期

4月の市税の納期

固定資産税1期

4月の夜間・休日の納税相談窓口

【夜間】 ○期日＝4月8日(木)・22日(木)

○時間＝午後5時15分～8時

【休日】 ○期日＝4月25日(日)

○時間＝午前8時30分～午後5時

※市役所への出入口は2階のみとします。ほかの出入口は施錠されていますので、ご注意ください

※新型コロナウイルス感染症の発生状況により窓口開設がない場合がありますので、来庁する際は電話などで確認願います

■問い合わせ 市税務課収納係 (☎68-9074)

【写真】3月11日に田老・防潮堤上で行われた
東日本大震災10周年追悼・伝承企画で黙祷する参加者

特集

このまちで生きる

～歩んできた10年、そしてこれから歩む未来～

東日本大震災。

地震や津波がまちを襲い、多くの人に悲しみを与えた未曾有の大災害から10年が経過しました。

あの日からインフラや公共施設の再建・整備をはじめ、まちは復興への道のりを一歩ずつ歩んできました。

宮古に住む私たちもそれぞれの人生において震災による影響を受けながら、前を向いて生きてきました。

この10年で私たちは何を見て、感じ、変わってきたのか。

これまでの歩みを振り返り、これからの未来を考えます。

東日本大震災の概要

■地震と津波の状況

▶地震発生日時 平成23年3月11日(金)午後2時46分ごろ

▶震源地 三陸沖北緯38度6.2分、東経142度51.6分、牡鹿半島の東南東約130^{キロ}付近

▶震源の深さ 約24^{キロ}

▶地震の規模 マグニチュード9.0 (平成23年3月13日気象庁発表)

▶震度 震度5強=茂市、震度5弱=五月町、鍬ヶ崎、長沢、田老、川井、門馬田代

▶津波の最大波 平成23年3月11日(金)午後3時26分 8.5^{メートル}以上

■被害の状況

▶人的被害 死者517人 (うち行方不明者94人)

▶住家被害 4,449棟 (全壊2,677棟、大規模半壊688棟、半壊640棟、一部損壊444棟)

▶非住家被害 4,639棟 (全壊3,291棟、大規模半壊647棟、半壊534棟、一部損壊167棟)

▶被害推計額 総額2,457億円

※国・県の施設、鉄道、電信電話、電気事業者関係などの被害を除く

▶被災世帯 4,582世帯、11,979人

※被災世帯数は罹災程度が半壊以上、発災時数値

あの日から10年の歩み

東日本大震災から10年が経過しました。

地震や津波で破壊されたまちは、一歩ずつ復興への歩みを進めてきました。

震災後の10年の歩みを年表で振り返ります。

また、東日本大震災から10年の思いを山本正徳宮古市長に聞きました。

平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
4月24日	8月26日	4月	3月11日
宮古港開港400周年記念 開港時代行列・記念式典を挙行政	「コミュニケーションFM「みやこハーバーラジオ」が開局を再開	震災がれきの仮設焼却炉が稼働	東日本大震災発生
5月24日	7月6日	3月11日	3月25日
環境省整備の震災メモリアルパーク中の浜がオープン	宮古市広域総合交流促進施設「シートピアなあと」が復旧し、営業を再開	宮古市東日本大震災1周年追悼式を挙行政	応急仮設住宅の建設を開始
12月21日	3月31日	3月30日	5月6日
宮古市民文化会館復旧。市民による舞台芸術発表を開催	震災による災害廃棄物の処理が完了	宮古市東日本大震災復興計画（推進計画）を策定	天皇・皇后両陛下が被災地をご訪問
4月6日	1月15日	2月10日	5月15日
三陸鉄道北リアス線「小本ー田野畑間」の運転再開により、全線運転再開	災害公営住宅の入居者募集を開始	国が復興庁を設置し、盛岡市に岩手復興局、宮古市と釜石市に支所を設置	応急仮設住宅への入居を順次開始
5月24日	7月2日	10月31日	6月26日
宮古市市民文化会館復旧。市民による舞台芸術発表を開催	宮古市役所本庁舎1階フロアが復旧	宮古市東日本大震災復興計画（基本計画）を策定	宮古市東日本大震災犠牲者合同慰霊祭を挙行政
4月24日	5月24日	8月10日	7月25日
宮古港開港400周年記念 開港時代行列・記念式典を挙行政	三陸復興国立公園が創設	指定避難所を全て閉鎖（最大時85箇所、8889人が避難）	応急仮設住宅が全て完成（62箇所、2010戸）



令和3年	令和2年		令和元年	平成31年	平成30年				平成29年		平成28年			平成27年														
3月11日	1月11日	12月19日	12月5日	7月12日	5月18日	10月12日	5月1日	3月23日	11月29日	10月1日	9月28日	9月2日	6月22日	5月1日	4月7日	11月19日	10月28日	7月12日	2月	10月2日	8月30日	4月22日	4月1日	3月7日	11月22日	9月	6月14日	
宮古市東日本大震災追悼式を挙げる	みやこ浄土ヶ浜遊覧船ラストラン ¹²	宮古市新市15周年・川井村合併10周年記念式典を挙げる	宮古盛岡横断道路「区界・築川間」(復興支援道路)が供用を開始 ¹¹	道路「宮古港ICー宮古中央IC」が供用を開始	三陸沿岸道路「宮古中央JCTー田老真崎海岸IC」宮古盛岡横断道路「宮古港ICー宮古中央IC」が供用を開始	三陸鉄道リアス線「新田老駅」開業	令和元年台風第19号の大雨で、道路の決壊や住宅地への浸水、土砂崩れなどが発生	天皇陛下即位に伴い「平成」から「令和」へ改元	JR山田線「宮古ー釜石間」が三陸鉄道リアス線として運行を開始(同時に「八木沢・宮古短大駅」「弘川駅」が新規に開業)	一般国道340号「立丸峠工区」(復興支援道路)が全線開通	宮古市役所開庁式、宮古駅南北自由通路・クロスデッキ開通式、イー・ストピアみやこ供用開始 ¹⁰	宮古市役所閉庁式	川崎近海汽船(株)がフェリー新航路「宮古ー室蘭」の営業を開始	東日本大震災や平成28年台風第10号豪雨被害を踏まえ、改訂した宮古市総合防災ハザードマップを全戸配布	道の駅たろうが全施設完成に伴いグラウンドオープン	業着手した復興道路・復興支援道路としては初の開通区間 ⁹	三陸沿岸道路「山田ICー宮古南IC間」が供用を開始(震災後に事業着手した復興道路・復興支援道路としては初の開通区間)	銚ヶ崎・光岸地まちびらき記念式を挙げる ⁸	復旧した宮古運動公園の落成式を挙げる(市内整備25団地766戸全て完成)	山口災害住宅の入居を開始(市内整備25団地766戸全て完成)	第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」のセーリングおよびレスリング競技会を開催 ⁷	平成28年台風第10号の大雨で、道路の決壊や橋の流出、住宅地への浸水、土砂崩れなどが発生	田老野球場が移転復旧し、こけら落としの試合を開催 ⁶	津波遺構「たろう観光ホテル」の保存整備工事が完了し、一般公開を開始	川崎近海汽船(株)がフェリー新航路「宮古ー室蘭」開設を正式決定	田老まちびらき記念式を挙げる	田老地区防災集団移転促進事業による宅地(159戸)が完成	宮古市新市10周年記念式典を挙げる

東日本大震災から ともに10年



宮古市長 山本 正徳

甚大な被害を及ぼした東日本大震災から10年が経過しました。改めて、犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、被災された方々にお見舞いを申し上げます。
「宮古市は必ずや復興します」
呼び掛けに込めた思い

東日本大震災発生直後、市長として、私ごまの先頭に立って災害に立ち向かわねばならないと思いました。目の前で起きた未曾有の大災害に対して不安、恐怖など動揺状態にある市民にまず安心感を持つてもらうことが必要だと考えました。また、行方不明者の捜索、がれきの撤去などを行う自衛隊や消防、警察、職員に勇気を送りたいと思い、防災行政無線で「宮古市は必ずや復興します」とメッセージ

ジを発信しました。最初は防災行政無線で市長の言葉を発信するというのは趣旨が違うという意見もありましたが、現場で作業することができない私が、災害に立ち向かう多くの方々に少しでも前を向いてもらうために自分ができることはこれしかないと思い、メッセージを送り続けました。支援への感謝。震災に立ち向かった「同志」との絆

これまで姉妹都市や大規模災害時における相互援助協定を結んでいる都市をはじめ、宮古市のことを思ってくださいる全国の自治体、企業、世界各国の多くの方々から物資や人的支援をしていただき、とても感謝しています。

ボランティア活動・災害派遣などで災害からの復旧、復興のためともに汗を流し、奮闘した方々はいつまでも「仲間」であり「同志」です。どこかの被災地でも同じだと思いますが、全国からの支援があったから今のまちの姿があります。
 宮古を思ってくれる方々やまちとの絆を大切に、市民の皆さまとともに、未来に向かって希望をもって歩んでいきたいと思えます。

【被災当時】



平成23年6月3日撮影

神林地区

被災当時は、津波によりヨットハーバーだけでなく駐車場や桟橋が被災しました。平成26年には復旧し、平成28年10月には希望郷いわて国体のヨット競技会場となりました。



Event



リアスハーバーは復旧後、さまざまなイベントが行われています（宮古港ボート天国、令和元年8月4日撮影）

【現在】



令和3年3月8日撮影

市内各地の被災当時の写真と、現在の写真を比較し、復興の状況を振り返ります。また、各地区で行われたイベントを紹介します。

写真で見える10年の歩み

【被災当時】



平成23年3月21日撮影

重茂・里地区

被災当時は、重茂漁港や防潮堤などが津波により押し流され、重茂漁協の管理棟のみが残っていました。

現在は、重茂漁協のふ化施設が整備され、奥側には防潮堤が整備されました。



Event



新しい交流の拠点が誕生するなど、まちも少しずつ変わってきています（宮古市重茂水産体験交流館の開所式、令和3年1月8日撮影）

【現在】



令和3年3月8日撮影

【被災当時】



平成23年3月28日撮影

田老地区

被災当時は、写真中央を左右に流れる長内川おさないまでがれきが流れ込んでおり、国道45号はアスファルトが剥がれ、地面が露わになっていました。

現在は、土地区画整理事業が完了し、写真中央には、移転した田老野球場や道の駅たろうが整備されました。

Event



道の駅たろうは、観光、食など田老の情報発信の拠点となっています（田老鮭・あわび祭り、令和元年11月21日撮影）

【現在】



令和3年3月8日撮影

【被災当時】



平成23年3月13日撮影

浄土ヶ浜遊覧船

鋤ヶ崎地区

被災当時は、港町のドックで整備中だった浄土ヶ浜遊覧船が陸地に打ち揚げられ、周辺には被災した家屋のがれきが山積みされていました。

現在は、土地区画整理事業が平成29年度に完了し、写真中央には、岩手県初となるラウンドアバウトが整備され、住宅も建築されつつあります。

Event



震災後、整備された七滝公園ではさまざまな催しが行われています（七滝公園夏まつり、令和元年8月11日撮影）

【現在】



ラウンドアバウト

令和3年3月8日撮影



(右上) 青色で示した範囲が、東日本大震災での銚ヶ崎地区の津波浸水域
(左下) 露店が並び人が溢れ、大漁旗がなびく第2回銚ヶ崎元気市の様子(令和2年12月6日)

「まちの10年」 銚ヶ崎の移り変わり

東日本大震災の津波でまちの光景が一変した地区の一つである銚ヶ崎地区。住民は市の他、さまざまな復興支援団体とともに、よりよいまちを目指して歩みを進めてきました。

昨年、銚ヶ崎に新たなイベントが生まれるなど、まちは新たな一歩を踏み出しています。

東日本大震災前の銚ヶ崎地区

銚ヶ崎地区は、宮古湾の北端、閉伊川の河口部に位置し、歴史は古く宮古の玄関口としての航路や漁業の拠点として栄えてきました。東日本大震災前は、魚市場や水産関係加工施設が立地し、その背後にはホテル、商店、銭湯などで商業地を形成していました。

津波による銚ヶ崎地区の被害状況

東日本大震災では、宮古湾から巨大津波が住宅や商店、大正・昭和時代のモダンな洋風建造物などを押し流し、蛸の浜からも津波が越えてきました。銚ヶ崎地区のうち日影町の他、銚ヶ崎上町・仲町・下町のうち、山側の高い所の住居は難を逃れました。これらの3町の平坦部分の他、蛸の浜町や熊野町の平地部分、臨港通、港町、日立浜町、山根町は壊滅的な被害を受けました。浸水面積は39・1鈔にわたり、最大浸水深は9・0鈔に達しました(右上の図参照)。被害家屋は、全壊646戸、半壊136戸、床上浸水33戸の計815戸で、建物被害は約800棟にのぼり、そのうち、流失をはじめとする全壊被害が約88%を占めました。人的被害は57人となりました。

た。(銚ヶ崎地区の震災当時と現在の写真比較は7頁参照)

復興に向けて住民、行政、各関係機関が連携する

地域の住民がメンバーとなり、平成23年9月30日に「第1回地区復興まちづくりの会」を開催。住宅・産業などの土地利用や防災などの方針についての話し合いを行いました。検討会は全4回を数え、住民らが議論を重ねたその内容を基に、平成24年2月17日に市への提言を行いました。提言を受けた市は、独立行政法人都市再生機構と平成24年4月11日に復興事業推進協力協定を締結。海側は水産加工場や保冷施設、魚市場の産業エリアに、陸側は商店や郵便局を配した商業エリアになりました。住宅は安全な山側へ集め、高台への避難路となる区画道路も設けるなど、暮らしやすさと防災の両面に配慮したまちにするための工事が進められました。同時に「宮古市・地域の文化遺産を活用した復興まちづくり検討委員会」が「銚ヶ崎坂道マップ」を作成するなど、地域の歴史・文化、固有の資源を生かしたまちづくりを目指しました。

平成29年3月12日には災害時の渋滞緩和対策、そしてまちの復興

(表) 鉾ヶ崎地区の東日本大震災前と現在の世帯数・人口比較

行政区	震災前の世帯数(人口) 平成23年3月1日時点	震災後の世帯数(人口) 令和3年3月1日時点
鉾ヶ崎上町	131世帯(299人)	62世帯(113人)
鉾ヶ崎仲町	54世帯(119人)	28世帯(50人)
鉾ヶ崎下町	160世帯(355人)	60世帯(123人)
日影町	124世帯(306人)	120世帯(245人)
熊野町	137世帯(346人)	101世帯(230人)
蛸の浜町	142世帯(341人)	64世帯(119人)
山根町	79世帯(200人)	46世帯(103人)
港町	66世帯(166人)	38世帯(59人)
日立浜町	134世帯(320人)	76世帯(161人)
合計	1027世帯(2,452人)	595世帯(1,203人)



「元気市を長く続くイベントにしたい」と話す菅原さん

株式会社かけあしの会が鉾ヶ崎に移転してきたことがきっかけとなり、地域住民と事業者が企画・運営する「第1回鉾ヶ崎元気市」が令和2年11月3日に開催されました。元気市には約20店舗もの露店が並び、震災後、鉾ヶ崎を離れた人たちが再会するなど、空き地が多くなったまちを盛り上げる催しとなっています。株式会社かけあしの会代表の菅原則夫さん(59)は「鉾ヶ崎の人たちは元気市開催にあたり、ゴミ拾いや交通整理など、協力してくれてとてもありがたい。かつての活気のあるまちにしたい、という住民の強い思いとともにこれからも鉾ヶ崎を盛り上げていきたい」と話します。かつて江戸時代には「南部領内随一」と言われ、栄えた歴史のあるまちに新たな息吹が生まれています。

のシンボルとして、ラウンドアバウト(環状交差点)の供用が開始され、同年10月28日には、鉾ヶ崎・光岸地区のまちびらきが行われました。平成31年3月25日には、切り通し・七滝・清水公園が一般に公開され、鉾ヶ崎のまちが新たなスタートを切りました。しかし、鉾ヶ崎地区の世帯数・人口の変化を震災前と現在で比較すると、左記表のとおり、人口は震災前の半分以下となっている状況です。こうした現状を打開すべく、地区住民らは地域をにぎやかにするため方法を考えはじめます。

新たなイベントが鉾ヶ崎のまちに活気をもたらす

復活の夢は途絶えるも…にぎわい作りに協力したい

—まちの人の声—

津波に負けず、旨い酒を鉾ヶ崎の地で造り続ける



元七滝湯経営

まさこ 袈岩政子さん(81)

「銭湯のない港町は廃れる」という思いのもと、どうにか再開できないかと奮闘しましたが、区画整理に時間を費やし、体力・精神的にも限界を感じ、平成29年に再開を断念しました。銭湯を復活させて、地域の人や旅行者が集まる場所にできなかったことが悔やまれます。

宮古は鉾ヶ崎から始まったまち。このまちに活気がないと、市全体の雰囲気に影響すると思っています。最近は鉾ヶ崎元気市が開催されたり、少しずつまちに変化が生まれてきています。元気な限り鉾ヶ崎のにぎわいづくりに私も協力していきます。

明治27年(1894年)創業の宮古で一番古い銭湯でした。東日本大震災では、入浴していたお客さんを高台に避難させ、一人の犠牲者も出さずにすんだのですが、銭湯は全壊してしまいました。

「銭湯のない港町は

菱屋酒造店は嘉永5年(1852年)創業で168年の歴史があります。

東日本大震災で酒を入れる樽は全部流され、建物も半分失われましたが、酒造りに欠かせない「酒室」は何とか被災を逃れたので、酒造りを続けることができました。たくさんお酒を購入していただき何とか震災を乗り越えることができました。

鉾ヶ崎出身なので、皆で力を合わせて活気のある港町に戻ればと思っています。できる限り



現役を続け、宮古で唯一の酒造会社として、鉾ヶ崎の地から美味しいお酒を皆さんにお届けしていきたいと思っています。震災から10年。これまでの感謝と未来への願いを込めて今年2月にラベルリニューアルされた特別純米酒「港に朝日、水面の光」



株式会社菱屋酒造店杜氏

はらこしん 腹子慎さん(65)

「学校の10年」 私たちが学ぶ理由

東日本大震災を知らない世代が、津波の恐ろしさや教訓をどう「学び」そして「伝承」していくか。「震災学習」は教育現場に課された課題の一つです。市内学校で行われている取り組みから宮古高校と宮古商工高校の取り組みを紹介します。

宮古商工高校・津波模型班

津波の脅威を伝え続け、200回の節目を迎える

宮古商工高校（菅原一志校長、生徒514人）（3月16日時点）の機械科津波模型班は、研究の一端で津波の動きを再現できる模型を製作し、市内の小中学校やイベントなどで「防災出前授業」を行ってきた。この研究は「津波犠牲者をなくす」ことを目標に宮古工業高校時代の平成17年から始まったものです。模型は地形図などを基に、ベニヤ板や紙粘土などで町並みや海岸線を再現。実演

する学校や地域に合わせて田老や藤原・磯鶏など、これまで12基を制作してきました。

模型に津波に見立てた水を流し込むと、住宅や商店の模型が浸水する仕組みで、第1波、第2波までの津波の動きを再現します。平成27年には水防展の発展に貢献したとして日本水大

津波と向き合う10年間 防災に担い手が増えれば

「津波の人的被害を最小限にするには一人一人がどこに逃げれば良いか把握していることが大事。後輩たちには出前授業を通じて、一人でも犠牲者を少なくする」という目標を引き継ぎ活動を続けていきたい」と話します。

令和2年度の宮古商工高校津波模型班の生徒の皆さん
（左から三浦誠也さん、山崎優人さん、後川友雅さん、佐竹蓮さん、山内流星さん、盛合大輝さん）



鉾ヶ崎小学校で児童を前に模型を使って津波の動きを説明する宮古商工高校の津波模型班の生徒

たとして日本水大賞委員会、国土交通省から「第17回日本水大賞」（国内で水環境問題に取り組む個人やNGO・NPO、学校や企業などに贈られる賞）で表彰されています。これまで行った「出前防災授業」は200回を数えます。後川友雅さんは

平成17年の設立当初から津波模型班を指導する同校元実習教諭の山野目弘さん（68）。活動を始めたきっかけは、同年に北海道・東北で規模の小さい地震が多発しており、万が一津波が発生した時に海外と内海ではどのような違いがあるのか疑問を抱いたことでした。津波模型は単純な作りに見えますが、実際の土地の高低差を正確に表現するなど繊細で難しい作業もあり、試行錯誤を繰り返して完成度を上げてきました。模型作りを高校生がする意味について「生徒自身が津波の恐ろしさを学ぶとともに、小学校や公民館など人前で説明することで、プレゼンテーション能力を高めることにつながれば」と思い指導してきたと話します。山野目さんは、地域の自主防災会に属し、定期的に避難訓練に参加しています。避難訓練と津波模



津波模型の作り方について説明する宮古商工高校元実習教諭の山野目さん

型班の出前授業について「何も知識がない状態で、いざ避難する事態に直面すると迷うことばかりだ」と思う。10回津波が起きて、10回とも逃げられる人や地域にしたいと思ひ、津波模型班の授業が、津波の恐ろしさを実感し、避難訓練に参加するきっかけになってくれればと願っています」と話しました。

震災後の10年間について「模型作りを通して、『津波』と向き合う時間でした。卒業していった生徒たちやこれまでの授業の受講者には、津波の恐ろしさや避難の心構えなどを周りの人たちに広めてほしい。地域の消防団に入ったり、防災について研究したり、地震や津波から自分たちの地域を守りたいと活動する人も出てきたらうれしい限りです」と語りました。

宮古小学校復興教育学習

防災力を備えた子どもを育てる教育



盛岡市立仁王小学校との交流学习で復興教育学習を通して学んだことを発表する宮古小学校児童（令和元年11月15日撮影）

平成24年から宮古小学校では、「ふるさと」の復興を担う『人づくり』の展開をテーマとした震災学習を行ってきました。これは、国語、社会、体育、特別活動を中心とした授業の中で「命」「こころ」「つながり」「ふるさと」など人間が生きていくためには欠かせない事柄を学ぶ授業です。

これまで市で行う避難訓練に参加し、避難所開設を体験したり、甚大な被害を受けた田老地区での



復興教育学習について説明する宮古小学校教諭・今津さん

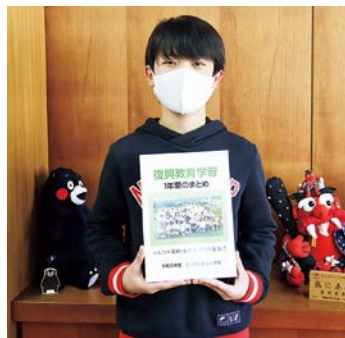
見学学習も行ってきました。また、家族で登下校中の避難場所・集合場所を確かめあう『我が家の津波防災計画』の作成・学区内にある震災関連の場所を問題解いて巡る『ハザード・ウォークラリー』、防災士による出前授業や復興教育学習で学んだことを発表しあう『3・11の命を守る会』などを実施してきました。これまで延べ447人の児童が、この復興教育学習プログラムを受けて、防災力を身につけて卒業していきました。

学校だけでなく、
家庭も巻き込んでいく

復興教育学習を担当する宮古小学校教諭の今津みどりさん（46）は「年々、震災を知らない子どもたちが増えていくなかで、効果の

ある防災教育とは何か」と日々考えている。学校だけでなく、家庭も巻き込んだ活動をし、震災のことを伝えられる人、自分の命を守り、周りの人の命も救える人一人でも多く育てることができれば」と取り組んでいます。

受け継がれる津波でんでんこ」の教訓



1年間の復興教育学習をまとめた冊子を手にする宮古小学校卒業生の野崎さん

宮古・第二中学校（取材時は宮古小学校6年）の野崎龍成さんは「震災の記憶はありませんが、学習を通じて、商店街で働く人や漁業関係者の人から当時の大変な状況の話を聞くことができた」と話します。

活動を通して一番感じたことは「どんな被害を受けても、家族や周りの人たちと力を合わせれば時間がかかったとしても立ち直ることができるので、第一に命を守る行動をすることが大事と学んだ」と話します。

宮古に貢献してくれただ方々の10年

17,178人。この人数が何を示す数字が皆さんは分かりますか？これは東日本大震災時（ボランティアセンターが開設された平成23年3月13日〜9月12日の期間）に全国、世界各国から宮古市にボランティア活動で来てくれた方々の人数です（宮古市社会福祉協議会調べ）。また、市には全国各地の自治体から延べ438人が応援職員として宮古の復興に貢献してくれました。その中から6人の方に宮古に対する思いを聞きました。



t.m.works代表
まつもととしや
松本俊也さん(51)

大阪府門真市在住。震災後の平成23年7月にボランティア活動で来宮。その後、平成28年台風第10号や令和元年台風第19号の際もボランティアを行いました。

被災した方々の心に少しでも寄り添うことができるとボランティアを続けている

東日本大震災発生時は大阪にいて、テレビで被害の大きさを知り、少しでも被災地の役に立てればと思いい、災害ボランティアを始めました。宮古では、高校生を含む地元の方々が率先してボランティアに参加していたことに驚きました。ボランティアをする中で知り合った仲間と一緒に、みやこ秋まつりの手伝いなどにも参加し、まちの盛り上がりにも驚いたことも覚えています。私は気持ちが悪く落ち込んだ時は、周りの友人たちと世間話をしたり、一緒に笑ったりすると気が楽に

なります。同じように、被災した方々がづらい気持ちを少しの間だけでも忘れられればと考え、コミュニケーションを取りながらボランティアを続けてきました。被災し、大変な状況の方々から、逆に私が元気をもらうことも多く、皆さんに支えられていると感じています。10年が経過し、今でも交流が続いている方々も多く、つながりに感謝しています。今後宮古市が他県からも子育て世代が移住してくるような魅力あるまちになっていくよう応援しています。

ボランティアとして 2/17,178



NPO法人「みやっこベース」
事務局長
はやかわ あきら
早川 輝さん(34)

福岡県北九州市出身。震災後の平成23年6月にボランティア活動で来宮。その後、宮古に定住し「高校生サミット」を開催するなど、若者の社会参加を応援している。

東日本大震災後の6月に宮古に来て、泥出しのボランティアなどをしました。活動を続ける中で、地元のボランティアの方々の復興に向けての熱い思いに触れ、この人たちと一緒に復興のために活動したいと思ったのが、宮古に残ることを決めるきっかけとなりました。その後、ボランティアなどを続ける中で、自分ができることでのまちに何かを残したいと考え、平成25年に「ユースみやっこベース」を立ち上げ、高校生など若い自分が宮古に関わったことで、良いことがたくさんあればうれしい

世代の活動のサポートを続けてきました。縁もゆかりもなかった宮古市に、来てからの10年間は、宮古のために何ができるかを考えて活動してきた時間でした。復興の先の未来を見据え、自分が関わったことで起きた良い変化を見極めて、今後の地域に必要な役割や機能を考えていきたいと思っています。これからも宮古のために自分ができることを継続し、次の世代にバトンを上手く引き継いでいければいいなと思っています。

山口県職員

ほうにしたかゆき
芳西孝行さん(49)

平成24年度の1年間、都市整備部都市計画課に配属



まちづくりへの思いを、原動力に

宮古市復興整備計画の策定や田老や鉾ヶ崎の土地区画整理事業などさまざまな仕事に携わりました。その中で、地域の皆さんの復興に対する熱い思いや期待などを聞き、その時に感じた「一日も早くまちづくりを進めなければならぬ」という強い思いを原動力に仕事に取り組みました。

まちづくりの説明会では、難しい説明を少しでもわかりやすく説明しようと努力する周りの職員の皆さんの姿勢に感銘を受けました。

コロナが落ち着いたら、お世話になった皆さんに会いに、そして宮古の味や自然などを堪能しに伺います。

周りとの協力が一番の力になる



茨城県笠間市職員

きくちけいいち
菊地恵一さん(50)

平成24年度の1年間、市民生活部生活課に配属

被災者の生活相談や仮設住宅入居者への支援など、被災者支援全般の仕事に携わりました。その中で、市役所だけでなく、自治会や消防、社会福祉協議会などさまざまな機関が協力し合い、一丸となって復興に向かっていったのが、特に印象的でした。

災害に遭った場合、一人一人の力では限界があります。周りの人たちと協力して取り組むことで大きな成果につながることを改めて学びました。宮古で過ごした時間は一生忘れられない宝になっています。これからもお世話になった方々へ恩返しをしながら、宮古との関わりを大切に持ち続けます。

派遣職員として

4 / 438

東京都品川区職員

しがことみ
志賀紀美さん(34)

平成28年度から30年度の3年間、産業振興部水産課に配属



前を向いて生きる大切さを学んだ

震災の影響を受けた水産物の県外への販売促進などに携わりました。県外で宮古のPRをしていると「宮古の食材はおいしい」と声をかけていただきました。私も宮古で食べた海産物のおいしさが忘れられず、品川に戻ってからもワカメやカキなどを取り寄せて食べています。

被災した方々と関わる中で震災の怖さだけでなく、前を向いて生きる人の強さを学ぶこともできました。品川区のキャッチコピーに「わ！しながわ」という言葉があります。「交流のわ(輪)を大切にしよう」という意味です。これからも「つながるわ(輪)！」を大切にしていきます。

それぞれの思う復興の実現に



秋田県大仙市職員

ふじやだいすけ
藤谷大輔さん(39)

平成27年度から29年9月の2年6カ月間、都市整備部建設課に配属

被災した道路・河川の復旧工事に携わりました。大仙市では、大きな災害を経験していませんでしたので、被災箇所を確認したり、被災した方々からさまざまな思いを聞いたりして、少しでも早い復興に向け、自分ができるところに全力で取り組もうという気持ちで仕事に取り組みました。

平成29年に秋田県で発生した豪雨災害時に急ぎょ大仙市に戻った際には、宮古での復興業務の経験を生かして災害対応に当たることができました。近年、自然災害が増えている状況ですが、市民の皆さんが復興を実感できるよう、大仙市から応援し続けていきます。

「家族の10年」 震災を乗り越えて 未来へ



生き方、人生を変えた震災。子どもたちが
自分の可能性を描けるまちであってほしい

Profile

志賀 政信さん (41、後列右)
実江さん (43、後列左)
郁子さん (79、後列中央)
巧士朗さん (9、前列右)
凜太郎さん (6、前列中央)
さくら子さん (3、前列左)

昭和4年創業の銭湯・福島湯と建築業・福島屋を家族で営む。子どもたちの好きな食べ物はお母さんのカレー。

被災者のため銭湯を無料開放。
傷ついた心を癒やす場に

志賀政信さん・実江さん夫妻にとつて初めての子ども・巧士朗さんが実江さんのお腹の中にいる時に東日本大震災は発生しました。

平成23年3月11日、政信さんは、田野畑村の工事現場の様子を確認しに行った際に地震にあいます。大津波警報が発令されたことですぐに自宅に向かいます。末広町商店街の通りが水没している中、胸まで水に浸かりながらも家にたどり着き、家族の無事を確認します。

津波の被害で福島湯は、家の玄関が流されて消失し、銭湯の風呂場は泥だらけの状態となりました。しかし、ボランティアなどたくさんの人たちが風呂場の泥だし、ビニールシートをしくなど手伝いに来てくれました。そのおかげで銭湯は一週間後に再開することができました。

その後、無料開放したことで、被災してお風呂に入れない人たちにとつて疲れを癒やす場となりました。

仲間の死とまちや子ども達にかける思い

震災により、所属するフットサルチーム先輩や仲間を亡くした政信さん。「自分が社会のため・まちのためにやれることはないか」と考え始め、消防団・陸中宮古青年会議所・町内会などさまざまな活動に積極的に参加するようになりました。その中で、宮古市民劇に参加し、市民だけで舞台を作り上げる圧倒的な熱量にまちの底力を感じエネルギーをもらったと言います。まちの未来について、「子どもたちが田舎の人がそんなことできるわけない、と考えを限定せずにそれぞれ自分のやりたいことを堂々と言い、行動できる宮古であってほしい」と話します。

実江さんは、「長男が生まれた時は初めての子育てに加え、震災で世間が混乱していてとても大変だった。二男、長女が生まれてやっと子どももつてかわいいなあ」と心にも余裕ができて落ち着いて子育てができるようになってきました。性格の違う子どもたちの子育ては大変ですが、大切な家族とともに宮古で生きていきたい」と子どもたちにほほえみかけます。

東日本大震災の年に生まれた子ども
 がいる夫妻とその年に結婚した夫妻に
 これまでの10年を振り返り、未来を考
 えてもらいました



最大の試練を一緒に乗り越えたから、 これからもずっと一緒に生きていける

Profile

島崎 準さん (41、右)
 奈緒美さん (38、左)
 幹太さん (7、中央)

準さんは宮古観光文化交流協会勤務、奈緒美さんは市内保育園勤務。幹太さんは市内小学校2年生。

準さんの勤務先がある浄土ヶ浜は家族でよく訪れる散歩コース。

結婚直後に訪れた未曾有の大災害は2人の絆をより強く

島崎準さん・奈緒美さん夫妻は今年3月で結婚10年目を迎えました。震災直前の3月3日に婚姻届けを提出し、3月26日には結婚式の予定でした。

東日本大震災時、準さんは浄土ヶ浜レストハウスで勤務中で、地震後、引き波で岸辺の水が沖まで引き、海の底が見える光景を目の当たりにしました。奈緒美さんは市内保育園で勤務しており、無事だったものの「海の近くで働く夫と翌日に直接会うまでは生きた心地がしなかった」と当時のことを思い起こします。

震災でレストハウスは全壊し、準さんは一時職場を失いましたが「結婚してすぐに最大の試練がきた。この大変な状況を夫婦で乗り

越えられたら、この先何があっても一緒に生きていける」と2人で支え合ってきたと言います。震災を経験して、奈緒美さんは「死は予期していない時にやってきて、いつどこで別れの日が来るのかは分からない。どんなに前日にけんかをしても、翌日の朝にはいっつらっしやい」と声をかけるようにしている」と夫に温かいまなごしを向けます。

子どもの誕生。大切な家族とともに幸せな時間を築く

平成25年には長男・幹太さんが誕生しました。準さんは「家族が増えたことで責任が増したが、その分頑張れる。子どもと一緒に行動できる間はできる限り時間を共有し、成長を見守っていきたい。震災の経験をしつかり伝えて、もし次に津波がきたとしても生き残ることができると子にしたい」と我が子への思いを話します。

奈緒美さんは「子どもが生まれてからはあつという間の日々だった。あつという間」と言えるのは、辛い時だけでなく、楽しい日々もあったから。多くの方が亡くなった震災を生き残った命だからこそ、家族との幸せな時間があることを大切に前に進んでいきたい」と未来に向けての思いを語ります。

災害に向き合う人とまち

東日本大震災を含めて、幾たびの地震や津波の被害を乗り越えてきた宮古市。そこには、「災害の恐ろしさを伝える」「未来の災害に備える」といった災害と向き合う人々の存在があります。

18万人に津波の恐ろしさを伝える

「学ぶ防災」ガイド 元田久美子さん

東日本大震災で甚大な被害を受けた田老地区の状況などを参加者に伝え、防災意識を持ってもらうことを目的とした宮古観光文化交流協会の「学ぶ防災」は今年4月で10年目を迎えます。これまで、約18万5千人（3月16日現在）の人たちが利用しています。開始当初からのガイド・元田久美子さん（63）に、これまでの活動について話を伺いました。



防潮堤の上で震災の被害状況を説明する元田さん

家族の死を乗り越えて向き合う「心に残る仕事」

震災で義母を失いました。「あのとき、家に戻れば義母を助けることができたかもしれない」。心どこかにそんな思いを抱えながらも、若い頃にバスガイドだった経験を生かせるのではないかと「学ぶ防災」でのガイドを始めました。義父は、昭和の大津波の話などを事あるごとに話してくれました。この「辛い経験を後世に伝えていく役割」が自分に巡ってきたのか、かもしれないと思いついたのがこの

仕事を始めるきっかけでした。

ガイドを始め、2、3年は、義母のことや津波で亡くなった方を思い、途中で感情が溢れることもあり、案内した方々から送られてくる励ましという言葉や『津波被害のことを忘れず防災意識を高めていきたい』といった感想に、改めて「心に残る仕事ができている」ということはうれしいことと思うようになりました。そして、悲しみを抱えつつも前向きに仕事に向き合えるようになりました。

自分の命は自分で守れる人一人でも増やしたい

ガイド5人でこれまで延べ約18万5千人を案内してきました。「災害は忘れたころにやってくる」



「学ぶ防災」スタッフの5人（左から鈴木重男しげおさん（71）、元田久美子つよしさん（63）、佐々木純子つよしさん（58）、澤口強おぼたみのるさん（41）、小幡実つよしさん（65））

とも言いますが、「一人が忘れるから災害にあう」とも思っています。全国各地で災害が多発しており、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震とそれに伴う津波や南海トラフの地震なども、今後起こる可能性が高いとされています。命はたった一つ。自分の命は自分で守れるようにしなければなりません。災害で命を落とす人一人でも減らすためこれからも、田老の地から津波の恐ろしさを経験を通して全国の人に伝えていきます。

連携を生かして災害に強い地域へ

津軽石地区自主防災会連絡協議会会長 若狭斌さん たけし

平成30年9月20日に、津軽石地区に9つの自主防災会をつなぐ連絡協議会が結成されました。自主防災会間の連携を高め、相互の連絡調整を図ることにより、地域の防災体制の充実強化と協力体制の確立に寄与することを目的とした宮古市では唯一の連絡協議会です。活動における情報・意見交換や、大規模災害発生時における支援および協力を行うことが期待されています。連絡協議会会長の若狭斌さん（82）に話を伺いました。

隣の地区の情報を聞くことから始まった

津軽石地区には9つの自主防災会がありますが、これまでそれぞれの組織が何をやっているのか、災害時にはどんな被害が想定されているのか知りませんでした。情報共有したり、連携を深めることで、未曾有の災害にも対応できるのではないかと、思ったことが連絡協議会を結成するきっかけです。



津軽石自主防災会連絡協議会に所属する9つの自主防災会の代表者の方々

ことができるようになりました。例えば、昨年、市主催の日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震とそれに伴う津波に関する説明会が各地区でありました。その際、代表者が説明を聞くだけでなく、地域の多くの住民が聞くことが必要と感じ、数地区の防災会が合同で勉強会を企画しました。市の職員を講師に、地域全体で参加した40人は危機意識を高めることができました。

自主防災会って何？

「自分のまちは自分たちで守る」という自覚、地域の連帯感に基づき、自主的に結成する組織であり、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う住民組織のことです。市内にある自主防災組織は53（3月16日時点）を数え、近隣住民や自治会が協力して、災害に備えています。

活動は、平常時と災害時に分かれ、災害時の被害軽減が最大の目的ですが、平常時は防災知識の広報・啓発、地域の災害危険箇所の確認などを行っています。

各自主防災会の危機意識醸成と連携

最近では台風の被害が増え、災害に対する地域住民の意識は高まっていると感じます。各自主防災会で、継続的に災害への危機意識を醸成するとともに「別地区の住民が避難所に来て協力し合える」ように自主防災会間の横の連携を強化していく必要があります。今後、どんな災害にも強く、対応できる地域になっていけばと期待しています。



津軽石地区の防災意識向上に貢献してきた若狭さん

震災から10年。復興は続いていく

平成28年台風第10号、令和元年台風第19号など相次ぐ災害、新型コロナウイルス感染症拡大など東日本大震災以降も市民の心理的負担となる出来事が起きています。また、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震とそれに伴う津波なども想定され、市では改めて津波防災都市宣言を行いました。
「こころの復興」とこれからの防災について考えます。

こころの復興を目指して

―震災から10年。宮古市民の心の健康現状をどのように考えますか―

東日本大震災から相次ぐ台風災害に新型コロナウイルス感染症の拡大が重なり、住民の方には甚大なストレスとなっていて、メンタルヘルスへのリスクは高まっていると思います。辛く悲しい出来事や悩みから「こころの健康」を守るのは、地域とのつながりや人と人との信頼関係ですが、コロナ禍により、今はできずにいる状態だと思います。また、発災時の悩み



大塚 耕太郎さん

神奈川医科大学医学部
精神科学講座教授兼
岩手県こころのケア
センター副センター長

は共通性がありました。震災から月日が経つことで複雑化し、困難な問題も少なくありません。宮古市は面積が広く、医療資源や社会資源は十分とはいえません。その状況下でも、各保健センター、宮古保健所、医療機関、社会福祉協議会、包括支援センターなど、地域保健福祉を担う機関が上手に連携し、献身的に対応していると思います。また、ゲートキーパー養成講座で支援者を育成したり、民生委員など地域の方々も巻き込んで、支援の輪の形成も進んでいて素晴らしいことだと思います。

―被災者はどのように悩みや不安と向き合っていますか。また、支援者、周りの人はどのように対応すれば良いですか―

自分自身でリラックス方法を見つけたら、食事や睡眠をしっかり取ることがこころの健康につながります。また心を開くことはとても難しいことですが、人とのつながりを大切にすることはこころと暮らしの安心につながります。支援者は傾聴し、寄り添うことが大切です。傾聴は、悩んでいる人にとって最大の支援と言われています。また、本人に寄り添い、サポートし、関係機関や相談窓口につなげることも大切です。地域の医療の支援の輪をできる限り広げ、連携が途切れないようにしていくことがとても重要だと考えます。

こころの復興への支援は区別されるものではなく、まだ道半ば。20年、30年先に「あんな大変なこともあったけど、こうして安心して暮らせるようになった」と地域の方々が思える時がゴールなのではないかと思っています。

あなたは一人じゃない。
悩みを話してみませんか？

こころや体の不調があるときは、一人で悩まず相談してください。相談窓口については、広報みやこ3月1日号19ページの健康プラザをご覧ください。

ゲートキーパー養成講座

ゲートキーパーとは家庭や地域、職場、学校などさまざまな場面で、悩んでいる人の変化に「気づき」「声をかけ」「耳を傾け」「必要な支援につなげ」「見守る」人のことです。

悩みを抱えた人は「人に悩みを言えない」「どこに相談しに行ったらよいかわからない」などの状況に陥ることがあります。悩みを抱えた人を支援するため、周囲の人々がゲートキーパーとして活動することが必要です。

市の計画では、市民の方は年間100人、市職員は5年間で200人を養成することが目標です。地域や職場で一緒にゲートキーパーの輪を広げていきませんか？

■問い合わせ

宮古保健センター ☎011-640111
田老保健センター ☎011-62975
新里保健センター ☎011-63500
川井保健センター ☎011-62036

◎取材を終えて

今回の特集の取材を通して、改めて「生きていく、この意味を問われた気がした。

震災にも負けず、地域の人やまちのために前を向こうとする人、まちに新たな活気を生もうと努力する人、経験や教訓を学び、そして後世に伝えようとする人、家族や周りの人の大事さに気づき、当たり前の日々をより大切に生きてきた人たちと取材を進めていく中で出会った。

その人たちに共通していることは「自分ではなく、誰かを思っている」ということである。その「誰か」とは近所の人や友人、職場の仲間、家族や大切な人であり、あるいは、これから生まれてくる人かもしれない。

震災を経験して、「生きぬいた人、それぞれが「誰かのために」自分にできることをして懸命に生きているんだ。そして、誰かを思うことで頑張り、未来に向かえるのではないかも思った。

大切な人や大切な場所を失い、悲しみにさいなまれながらも、それでも10年間一歩ずつ皆が前に進んで来た。

「宮古が好きだ」「この潮の香りが好きだ」「大切な人や家族がいる」など、さまざまな理由でこの地で暮らしていると思う。ひとつ言えることは、あの日から学んだことを胸に、それぞれの命を燃やして、このまちで生きている人がたくさんいるということだ。

[参考資料]東日本大震災宮古市の記録 第1巻《津波史編》、第2巻(上)《復興・防災編》、(下)《記憶伝承編》(平成29年3月30日、宮古市発行)、大津波を生きる 巨防防潮堤と田老百年のいとなみ(平成24年11月30日、高山文彦著)、宮古市立宮古小学校令和元年度「復興教育学習1年間のまとめ」-ふるさとの復興を担う「人づくり」を目指して-(令和2年3月16日、宮古市立宮古小学校発行)

津波防災都市宣言について

市は、これまでの津波被害を教訓として、災害の記憶が薄れることのないよう、また、災害に対する備えと地域防災力の向上に努めながら、積み重ねてきた英知を今後引き継いでいくため、平成19年に「津波防災都市」を宣言しました。

東日本大震災から10年の節目を迎えた令和3年3月11日に、今後一人の犠牲者も出さないという誓いを込めて、改めて「津波防災都市」を宣言しました。

津波防災都市宣言

宮古市は、明治29年、昭和8年、平成23年と、度重なる大津波により壊滅的な被害を受け、多くの尊い人命と貴重な財産を失ってきました。そのたびに市民の不屈の精神と深い郷土愛により被害を克服し、今もまた東日本大震災からの復興の歩みを進めています。

私たちは、津波災害から学んだ多くの教訓を胸に、その歴史を忘れることなく、時代により移り変わる災害への対処と地域防災力の向上に努め、積み重ねた英知を次の世代へと引き継いでいきます。

東日本大震災に罹災した日、御霊の鎮魂を祈念し、一人の犠牲者も出さないことを誓うとともに、市民一人ひとりが津波防災に取り組み続ける先駆けの地となるため、ここに宮古市を「津波防災都市」とすることを宣言します。

【背景写真: 3月11日に田老・防潮堤上で行われた東日本大震災10周年追悼・伝承企画での様子】

「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」の制定について

岩手県では、「東日本大震災津波を語り継ぐ日条例」を定めました。

詳しくは、岩手県議会ホームページ (https://iwatekengika.i.gijiroku.com/g07_IkenView.asp?SrchID=935&bunrui=&keyword1=&keyword2) をご覧ください。



■問い合わせ 市危機管理課 (☎68-9111)

天災は、忘れられたる頃来る、

かつて、物理学者の寺田寅彦氏が「天災は忘れられたる頃来る」と語ったように、人間は忘れやすい生き物なので、何も手立てをしなければ、災害の記憶や教訓はいつか人々の心から薄れていくのだらうと思います。

人は、防災のことはハード整備に頼ろうとしますが、相手は大自然です。ハードには限界がありますが、大自然にはありません。ハード面に頼りきることは、防災上は「非常にこわいこと、です。

千年に一回の大災害に備えるということは、千年先の世代に教訓を伝えるということです。しかし、私たちは、直接は次の世代にしか伝えることができません。あれ程大きな災害を経験したにも関わらず、また忘れそうになっている自分にブレーキをかけ、なぜそうなったのか、これからどうするのかをしっかりと考え、次の世代に渡していきたいと思っています。

それが、ハードを過信し慢心しない「心の防潮堤」となり、しっかりと次の世代に渡すことで手立てとなります。そして「常に忘れない」ことで、千年先の生命を守るのだらうと思います。



市危機管理課 (防災士)

山崎正幸さん(56)

新型コロナウイルスワクチンの接種について

●新型コロナウイルスワクチン接種の予約を開始します

ワクチン接種は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、**完全予約制により実施します**。まずは、**75歳以上の方を対象**として、接種券を順次送付します。接種券が届いた方を対象として、4月12日(月)から予約の受付を開始します。

予約の方法は、予約センターへの電話予約のほか、WEB予約などの方法があります。予約センターの電話番号など詳しくは、接種券に同封の「宮古市高齢者対象新型コロナワクチン接種のお知らせ」をご覧ください。

接種会場は、イーストピアみやこでの集団接種のほか、田老・新里・川井の各診療所でも実施します。田老・新里・川井の各地区にお住まいの方は、診療所をご利用ください。

現在何らかの病気にかかり、治療（投薬など）を受けている方は、その病気を診てもらっている医師に、ワクチン接種を受けてよいか事前に相談してください。

そのほか、ワクチン接種に関してご不明な点

がある場合は、下記相談センターまで問い合わせてください。

■電話相談（4月1日(休)受け付け開始）

【接種券の紛失や接種の方法などの相談・お問い合わせ】

▷宮古市新型コロナワクチン接種〔相談〕センター（☎0193-68-9100）

受け付け時間 午前9時～午後5時（日・祝日は休み）

【コロナワクチン施策の在り方などに関する問い合わせ】

▷厚生労働省新型コロナワクチンコールセンター（☎0120-761-770）

受け付け時間 午前9時～午後9時（土・日・祝日も対応）

※ワクチン接種は、新型コロナウイルス感染症による、死亡者や重症者の発生をできる限り減らし、結果として新型コロナウイルス感染症のまん延防止を図ることが目的です。**ワクチン接種を受けた後も気を緩めず、引き続き、感染防止対策の徹底をお願いします**

東日本大震災支援制度の延長のお知らせ

①宮古市被災者住宅再建支援事業補助金

▽対象 住居の全壊または解体で基礎支援金を受給している、岩手県内に住居を建設または購入で加算支援金を受給している世帯

▽補助額 最大100万円

②宮古市すまいの再建促進事業補助金

▽対象 住居の全壊または解体で基礎支援金を受給している、宮古市内に住居を建設または購入で加算支援金を受給していること

※災害公営住宅に入居してからの再建は対象外

▽補助額 最大200万円

③生活再建住宅支援事業（復興住宅新築）

▽対象 被災者が被災者住宅再建支援事業の受給決定を受けていること

▽補助内容 住宅の再建（新築・購入）で、バリアフリー対応工事または県産材使用工事を行った場合に支払った費用の一部を補助

④生活再建住宅支援事業（利子補給）

①新築の場合

▽対象 被災者が令和2年度までに利子補給の受給決定を受けていること（補給期間の5年分まで継続します）

※令和3年度から利子補給を受ける場合は被災者住宅再建支援事業の受給決定を受けていること

▽補助内容 住宅を再建（新築・購入）するための住宅ローンを組んだ場合に利子の一部を補助

②補修または改修の場合

▽対象 被災者が令和2年度までに利子補給の受給決定を受けていること（補給期間の5年分まで継続します）

▽補助内容 被災した自宅を補修または改修するための住宅ローンを組んだ場合に利子の一部を補助

③既住住宅債務の場合

▽対象 被災者が被災者住宅再建支援事業の受給決定を受けていること

▽補助内容 新しく住宅ローンを組んだ方で、被災した自宅の住宅ローンが残っている場合に以前のローンの利子の一部を補助

【共通】

申請期限 令和4年3月31日(木)

■問い合わせ

【①②の事業について】市福祉課生活福祉係（市役所1階、☎083-083）

【③④の事業について】市建築住宅課公営住宅係（市役所3階、☎083-9107）

地域おこし協力隊便特別号

令和2年度末で任期を終了した山本千香さんと松下竜之介さんの地域おこし協力隊の2人に、活動を通しての思い出と退任後の活動について聞いてみました。



地域おこし協力隊の山本千香です。平成31年4月から2年間、田老地区で活動してきました。美味しい宮古のものを食べたり、楽しいイベントに参加したり、田老を満喫しました。これからも田老の魅力を発信していきます。

私のミッションは、主に「道の駅たろう」でのイベント企画などを通じてのにぎわいづくり、産直とれたらうを中心とした情報発信など田老地区の活性化に関わる業務でした。

小さな規模でも毎月イベントなどを開催したいと思って動いていた中、コロナ禍で中止を余儀なくされ、思うように動くことができず、苦しくなったりもした2年目でした。その中で、昨年の10月には地域の皆様などが開催した「ジオのカーニバル」がありました。準備期間は一月半と短い期間でしたが、「タロウイン」を同時開催することもできました。

短期間での調整はとて大変でしたが、田老の皆様と連携して開催に向かうことができたこと、周りの方々に助けられて



道の駅たろうの魅力的なモノをつくる皆さん

動していきます。離れていても田老とはつながり続けていきたいですし、宮古市内ではウクレレを抱えて活動をしていきます。見かけた際には、お気軽に声をかけていただけたらと思います。今後ともよろしくお願ひします。

いながら開催できたことは、とても貴重な経験になりました。

田老に移住してから、見るものや食べるもの、お会いする方々の魅力に、ますます田老のことを好きになっていく日々でした。地域の方々に大変良くしていただき、とても充実した2年間の活動でした。退任後も情報発信を続け、これからも田老の魅力をさらにPRできればと思っています。生活の拠点を一度、家族がいる横浜市に移し、今後、行ったり来たりしながら、活動していきます。



宮古に移住してきてから、約一年半。協力隊の任期は残り一年半ありますが、コロナ禍における地域の現状から、4月からは個人事業に切り替えて活動を続けます。

ミッションであった移住促進の仕組みづくりとしては、情報発信のための資料を揃え、オンラインでの移住相談のノウハウ整備などを進めました。移住相談を受けた方も無事に移住されるようになってきました。私自身、宮古市では協力隊終了後の定住第一号になります。

移住定住の促進における課題は、自治体ごとに目指すべき答えが異なります。宮古の今後の優先課題は、「人の流出をどう抑えるか」「定着の土壌作り」だと考えています。郷土の魅力を発掘し、知るこ



私と一緒に宮古をたくさん歩きましょう

いて楽しみ学ぶ「街あるき」アクティビティの企画が軸となります。引き続き、地元を支えている皆様と協力し合い、宮古の経済活動や地域づくりに貢献して参ります。これからもよろしくお願ひします。

地域おこし協力隊の松下竜之介です。3月いっぱい、地域おこし協力隊の任期を終えることにしました。宮古に定住し、さまざまな事業者さまの営業活動支援や、宮古の魅力を商品化する活動を行います。

と、雇用や産業を太くしていくことが大切です。しかし、コロナ禍により困難が続いています。宮古では、特にインターネット展開による販路拡大や、地域内を中心にした「地元を知る個人観光」の商品作りが急務と感じています。

そこで、私の今後の事業としては、インターネット通販での販路開拓や商品開発支援、三陸ジオパーク・みちのく潮風トレイル・閉伊川や川井エリアの自然を活用した、宮古を歩

宮古市
地域おこし
協力隊
MIYAKO CHIKIYOKOSHI KYOURYOKUTAI

宮古市地域おこし協力隊
フェイスブックページで
情報発信中！
https://www.facebook.com/miyako.chikiyokoshi/



重度の障がいのある人へ 令和3年度宮古市 福祉タクシー助成券 を配布します

重度の障がいのある人の社会参加の促進を図るため、タクシー料金の一部を助成する福祉タクシー助成券を次のとおり交付します。

■対象 市内に住所を有する「身体障害者手帳1・2級」、「療育手帳A」または「精神障害者保健福祉手帳1級」のいずれかを所持している重度の障がいのある人

※じん臓機能障害により「身体障害者手帳1級」を交付されている人のうち、人工透析治療を行っており、本人および配偶者の市民税が非課税の人については、助成券の交付枚数を追加しますのでお申し出ください

■注意事項

▷手帳へ写真が貼り付けされていない場合は、助成券を利用できません。

▷社会福祉施設へ入所している人や、医療機関に入院している人は、交付の対象となりません。

▷令和2年度分の助成券（水色）の使用期限は3月31日までですので注意してください。

■用意する物 障害者手帳、印鑑（代理申請の場合、代理の人の印鑑も必要です）

※人工透析治療を行っていることにより助成券の追加交付を受ける場合は、人工透析治療をしていることが分かるもの（「特定疾病療養受療証」など）をお持ちください

■申請開始日 4月1日(木)

■申請場所 市福祉課（市役所1階）、各総合事務所

■問い合わせ 市福祉課障がい福祉係（☎68-9135）

宮古市旧庁舎跡公園（仮称）の愛称が 「うみどり公園」 に決定しました

作品募集・市民総選挙にご協力いただきありがとうございました。

■作品募集の結果

▷応募作品 323点

▷応募期間 令和2年10月15日～11月16日

■市民総選挙の結果

▷投票総数 1,481票（配布数23,841票、投票率6.21%）

▷投票期間 1月1日～25日

【最優秀作品】

	作品名	票数	作品名応募者
①	うみどり公園	472	15歳男性（高校生）

【優秀作品】

	作品名	票数	作品名応募者
①	シーサイドパークみやこ	358	17歳男性（高校生） 32歳男性
②	宮古中央広場	333	17歳女性（高校生）
③	新川町公園	159	59歳女性 62歳男性
④	おでんせパーク	155	10歳女性（小学生） 66歳男性

※応募者に係る情報は応募時点のもの

■特記事項 最優秀作品および優秀作品に選ばれた人については、公園のオープニングセレモニーで表彰を予定しています（7月末予定）。

■問い合わせ 市都市計画課まちづくり推進係（☎68-9105）

4月から市の組織の 一部が変わります

行政サービスの向上を目指して、4月から次のとおり市の組織を変更しました。

●総務部

▽「デジタル推進課」の新設

全庁的なデジタル化を推進するため、デジタル推進課を新設しました。

●企画部

▽企画課「地域創生推進室」と「交流推進室」の統合↓「地域創生交流推進室」設置

企画課地域創生推進室と交流推進室を統合し、地域創生交流推進室を設置しました。

●市民生活部

▽「環境生活課協働安全係」、「被災者支援室」の統合・廃止

環境生活課協働安全係、被災者支援室を統合・廃止し、男女参画・協働推進係と生活安全係に再編します。被災者支援事務は生活安全係が継承します。

▽「男女共生推進センター」廃止に伴う「男女共同参画事務」の継承

男女共生推進センター廃止に伴う男女共同参画事務は、男女参画・協働推進係が継承します。

●都市整備部

▽建設課「復興道路推進室」↓「高規格道路整備室」へ改称

建設課復興道路推進室は、本年中に復興道路・復興支援道路の全線開通が見込まれることから、高規格道路整備室に改称しました。

■問い合わせ 市総務課職員係（☎9062）

鉄道が結ぶ人、国、心

クウェート国復興支援感謝列車出発式
クウェート国の特命全権大使から三陸鉄道への支援は、これまでの日本のクウェート国に対する支援の恩返しで、復興は皆さんの努力のためです。鉄道が人々をつないでいくことを願っています」とあいさつがあり、会場は温かい拍手で包まれました。



クウェート国の衣装を着て感謝の意を表しました



夢あかりを見つめ、防災意識を高める参加者

千徳小学校児童が快挙

新聞コンクール文部科学大臣賞受賞
3月3日、「第70回全国小・中学校・PTA新聞コンクール」において「小学校新聞の部」で文部科学大臣賞を受賞した千徳小学校の児童が山本宮古市長を表敬訪問しました。
新聞作成でリーダーを務めた6年生の山口昊さんは「初めて応募した作品で文部科学大臣賞を受賞して驚いている。自分たちが新聞を作ってみて、新聞社が毎日発行している大変さが分かった」と賞の重みを感じていました。



見事なチーム力で榮譽ある賞を受賞しました

受け継がれる防災意識

昭和三陸大津波88周年追悼
3月3日、田老防潮堤で昭和三陸大津波88周年「防浪堤夢あかり追悼」が行われ、参加した20人のボランティアによって約200個の灯笼に火がともされました。
このイベントを企画したNP法人津波太郎の大棒秀一さん（69、田老）は「自分は昭和三陸大津波の恐ろしさを教えられてきた世代なので、3月3日から11日までを、防災意識を高める期間として後世に伝えていきたい」と今後の抱負を話しました。



芸術などを通じて、市民が楽しく過ごしました

市民交流の輪が広がる

春の市民交流DAY
3月6日、イーストピアみやこで「春の市民交流DAY」が行われ、参加者がさまざまな分野のイベントを通じて交流しました。
宮古市在住で第55回文藝賞受賞者の日上秀之さんによる講演会、防災ワークショップ、ウクレレ交流会などがありました。日上さんの講演会で作品の朗読を担当した根市知代子さん（70、西ヶ丘）は「作者の話を聞くことで理解が深まり、実りのあるイベントだった」と笑顔で話しました。

妊娠中の人や赤ちゃん・子ども向けの催しなど
子育てに関する情報を紹介するページです

BABIES & CHILDREN'S ROOM

子育て情報



※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、下記イベントを中止とする場合があります

子育て支援センター「にこにこルームみやこ」(小山田保育所内、☎62-0884)

●開設日=毎週月~金曜日(5日(月)は入所式のため午前中お休み) ●開設時間=午前9時~正午、午後1時~3時 ●持ち物=親子とも上履き

※ご利用の際は、事前に電話で問い合わせてください

※午前のみ園庭、ホール利用可

催し名	日時	場所	内容など	対象児など
キッズ田老	15日(木)10:00~11:00	田老公民館	手遊び、ふれあい遊び、だるまさんおきあがりこぼし作り、お話 ほか	未就学児とその保護者

つどいの広場「すくすくランド」(キャトル宮古5階、☎63-8061)

●開設日=毎日 ●開設時間=午前10時~午後6時

催し名	日時	場所	内容など	対象児など
ぞうさんのミミの会	2日(金)・16日(金)11:15~11:30	すくすく ランド (キャトル 宮古5階)	絵本の読み聞かせ	0歳以上のお子さんとその保護者
赤ちゃんのつどい ※バスタオル持参	9日(金)11:00~11:45		ふれあい遊び	3カ月~11カ月までのお子さんとその保護者
親子ふれあい遊び& ばあばの読み聞かせ会	22日(木)11:00~11:45		新聞紙遊びと絵本の読み聞かせ	1歳以上のお子さんとその保護者

つどいの広場「ひよこクラブ」(認定こども園宮古ひかり内、☎62-6845)

●開設日=毎週月~土曜日 ●開設時間=午前9時~午後2時

※10日(土)は入園式のため、お休み

催し名	日時	場所	内容など	対象児など
パネルシアター	20日(火)10:30~10:45	ひよこクラブ (宮古ひかり)	パネルシアターを見ながら歌遊び	未就学児(0~6歳)とその保護者
こいのぼり制作	27日(火)10:30~11:30		卵パックを利用して、こいのぼりを作る	

つどいの広場「のびっこクラブ」(認定こども園そけい幼稚園内、☎62-8678)

●開設日=毎週月・水・金曜日 ●開設時間=午前9時~正午、午後1時~3時

※2日(金)はお休み

催し名	日時	場所	内容など	対象児など
こいのぼりを作ろう ※上履き、飲み物持参	21日(水)10:30~11:15	のびっこクラブ (そけい幼稚園)	親子でこいのぼりを作ってみよう	未就学児(0~6歳)とその保護者



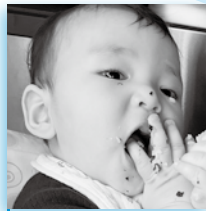
あと
坂上桜都ちゃん
今月で1歳です
お誕生日おめでとう！毎日
かわいい笑顔がありがとう
たくさん食べて遊んで大き
くなってね♪ (家族)



ふうま
伊藤楓馬ちゃん
今月で1歳です
お誕生日おめでとう！いつ
も笑顔で元気な楓馬♪お姉
ちゃん、お兄ちゃんみたいに
大きくなあれ！ (家族)



きこ
駒井希虹ちゃん
今月で1歳です
笑顔がすてきなきこちゃん
お誕生日おめでとう！
たくさん食べて遊んで
元気に育ってね！ (家族)



いと
永洞偉都ちゃん
今月で1歳です
いっとくん、1歳のお誕生日
おめでとう！みんなに愛さ
れているいっとくん、元気にす
く大きくなってね。 (家族)



なほゆき
伊藤直之ちゃん
今月で1歳です
お誕生日おめでとう！
これからも可愛い笑顔
たくさん見せてね♪ 元
気に大きくなあれ☆ (家族)



はる
若江遥留ちゃん
今月で1歳です
1歳のお誕生日おめでとう！
いつも元気で食べることが大
好きな遙留、これからもいっ
ぱい食べて、大きくなってね♪ (家族)



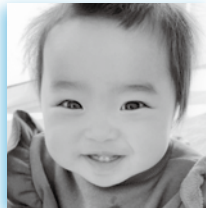
ゆいと
豊間根悠絃ちゃん
今月で1歳です
1歳のお誕生日おめでとう☆
笑顔いっぱいなゆいとが大好き
だよ！今年も楽しい思い出
たくさん作ろうね◎ (パパ、ママ)



あかわ
吉田朱希ちゃん
今月で1歳です
1歳のお誕生日おめでとう！
毎日かわいい笑顔がありが
とう◎ これからも元気に大
きくなってね (パパ、ママ)



みやび
鈴木雅ちゃん
今月で1歳です
1歳のお誕生日おめでとう☆
毎日パワー全開の
雅くん！これからもすく
すく育ってね♪ (家族)



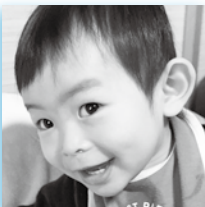
りの
町田桜音ちゃん
今月で1歳です
誕生日おめでとう！りのちゃん
の笑顔はいつもみんなを元
気にしてくれるよ！これか
らもたくさん食べて、たく
さんあそんで大きくなってね!! (家族)



たいち
堀欠大馳ちゃん
今月で1歳です
1歳のお誕生日おめでとう！
これからもいっぱい食べて
いっぱい笑って元気にたく
ましく育ってね◎ (家族)



ゆうり
伊藤悠利ちゃん
今月で2歳です
いつもわんぱく全開、パワフル
な悠ちゃんにみんな元気をも
らっているよ♪今年も楽しい
思い出沢山作ろうね☆ (家族)



しょう
佐藤翔ちゃん
今月で2歳です
お誕生日おめでとう！
食いしん坊の翔、たくさ
ん遊んで元気に大き
くなってね☆ (家族)



めい
中嶋めいちゃん
今月で2歳です
めい2歳のお誕生日おめでと
う☆ 妹思いの優しいお姉ちゃ
ん、これからも優しくニコニコ
のめいでいてね◎ (家族)



たすく
古里丞ちゃん
今月で2歳です
トミカ大好きな丞！たく
さん遊んで、すくすく元
気に育ってね!! (家族)



さくと
久保尻翔翔ちゃん
今月で2歳です
サク、4兄弟のなかで最も
活発な君に父さんはひそか
に期待してるみたい◎ すく
すく育ってね☆ (母さん)



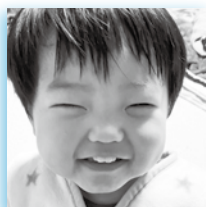
あかり
竹下明里ちゃん
今月で2歳です
明里、お誕生日おめでとう！
みんなにたくさんの幸せを
我が家の笑神様に、心から
敬意を表します。(とど、かか、ねえね)

応募方法 対象年齢は2歳以下。応募者多数の場合は、初掲載の子どもを優先します。

写真に、子どもの名前・ふりがな・生年月日・郵便番号・住所・電話番号・メッセージ(40字程度)を書いたメモを添えて、市企画課広報係(市役所4階)にお届けください。

郵送の場合は、〒027-8501(住所不要)宮古市役所「広報みやこ」係へ。メールの場合は「mailto:info@city.miyako.iwate.jp」までお送りください。

5月生まれの子どもの写真は、4月5日(月)必着でお願いします。



いと
熊岡豪翔ちゃん
今月で2歳です
2歳おめでとう！乗り物大好きな豪ちゃん、
お誕生日おめでとう！今年も楽しい思い出
たくさん作ろうね!! いっぱい可愛い笑顔
で幸せしてくれてありがと◎ (家族)



さくら
永野桜愛ちゃん
今月で2歳です
お誕生日おめでとう！今年
も楽しい思い出いっぱい
作ろうね!! だいすき◎ (家族)



あゆむ
生形歩武ちゃん
今月で2歳です
2歳のお誕生日おめでとう！
いつも元気で活発なあつくん、
これからもお姉ちゃんと仲良く
沢山遊んでね! (家族)

児童手当の二重支給・過払いにご注意ください

市から児童手当を支給されている人のうち、①②のいずれにも当てはまる人は「児童手当の消滅届」の提出が必要です。

- ①加入年金が共済年金に変わる人
 - ②職場から児童手当を支給されることになる人
- ※届け出が遅れると、児童手当を二重に受け取ることになり、**過払い分を返還することになります**

■注意の必要な人

- ▷4月から公務員として採用された人
- ▷4月から学校などで常勤の臨時講師として採用された人
- ▷公的機関にお勤めの人で、4月から保険証が変わる人

■問い合わせ 市こども課子育て支援係(市役所1階、☎68-9084)



野生鳥獣による農作物被害対策にご協力を！

令和元年度の岩手県の農作物被害額は4億200万円、宮古市は2500万円で、そのうち半分以上がニホンジカによるものです。また、市内ではイノシシの目撃情報もあり、農作物被害が今後予想されます。

◎宮古市鳥獣被害対策実施隊の活動にご理解とご協力を

「宮古市鳥獣被害対策実施隊」は、宮古地区猟友会の推薦を受けた猟友会員が活動しています。実施隊は、農作物被害を減らすため、狩猟期以外にも銃器や罠によるニホンジカなどの有害鳥獣捕獲などを行います。隊員はオレンジ色のベストと帽子を着用し、細心の注意をはらって活動しています。また、山菜採りなどで山に入る時には、次の点に気をつけてください。

●目立つ色の服を着る ●ラジオなど音のなる物を身に付ける ●銃声や、シカを追い立てる音が聞こえたり「罠猟中」の看板を見かけたら近づかない

◎全県一斉ニホンジカ捕獲強化月間

4月1日(木)～30日(金)

◎農家の人の継続的な追い払い、防除、環境整備が捕獲と同じくらい重要です！

農家の人や地域の人にも次のことに協力をお願いします。

●田畑周辺のやぶを刈り払いし、鳥獣の隠れ家無くす ●放棄果樹や作物、生ごみなどを放置しない ●電気柵を適切に設置し、草刈りなど管理を行う

※電気柵の購入費の一部を補助しますので、購入前に問い合わせてください

◎ツキノワグマの出没が増えています！

山には、多くのツキノワグマが生息し、エサを求め山から人里へ下り目撃されています。昨年は市内で人身被害が2件発生しました。次のことに気をつけてください。

●単独ではなく複数で行動する ●山菜採りなどの入山やクマの活動が活発になる朝夕の時間帯の散策などは控える ●鈴やラジオなどの音や声で、人間の存在を知らせる ●クマの嗅覚は大変優れているため、匂いの強いものは、家の周辺には保管しない ●桑の実などの果実、ハチミツも好物のため、放置しない ●子連れの母グマはとても凶暴で、子グマの近くには母グマがいる可能性が高い



クマに荒らされたトウモロコシ畑

◎「鳥獣被害報告届」にご協力を

市で多発している農作物被害状況を把握し、今後の対策に反映させるための調査を行っています。用紙は、市ホームページ (https://www.city.miyako.iwate.jp/norin/yugaijyu_boushi.html) からダウンロードできます。

■問い合わせ 市農林課農政係 (☎68-094-094)

市営建設工事の発注状況のお知らせ (2月着工分)

2月に着手した工事です。工事の入札契約の状況は市のホームページ (https://www.city.miyako.iwate.jp/index/jigyosya/sieikensetukouji_kekka.html) でも公表しています。

html) でも公表しています。

■問い合わせ 市契約管財課 (☎68-9070)



工事名	場所	工事期間	契約金額 (円)	請負者	工事担当課
1災697号大堀内線外3件災害復旧工事	田老字小堀内南 ^{ほか}	R3.2.5~R4.3.15	132,000,000	三好建設(株)	建設課
1災181号北川目川外5件災害復旧工事	長沢第2地割 ^{ほか}	R3.2.5~R4.3.15	83,600,000	陸中建設(株)	建設課
山口川の1外河川改修工事	山口五丁目 ^{ほか}	R3.2.5~R3.9.3	21,811,900	(有)マツモト機材工業	建設課
リバーパークにいさと案内看板設置工事	茂市第5地割	R3.2.13~R3.3.14	4,180,000	刈屋建設(株)	新里総合事務所
宮古市立千徳小学校バリアフリー化工事	西ヶ丘一丁目	R3.2.19~R3.9.16	62,568,000	(株)菊地建設	教委総務課
1災349号長畑沼の浜線外3件災害復旧工事	田老字乙部野 ^{ほか}	R3.2.19~R4.2.13	41,470,000	刈屋建設(株)	建設課
1災341号御殿山線外5件災害復旧工事	重茂第23地割 ^{ほか}	R3.2.19~R4.2.18	42,350,000	(株)小成良治商店	建設課
宮古市立鍬ヶ崎小学校トイレ洋式化工事	熊野町	R3.2.19~R3.6.18	30,118,000	(株)第一水道設備	教委総務課
宮古市立磯鶏小学校トイレ洋式化工事	上村	R3.2.19~R3.6.18	26,378,000	(株)伊藤住宅設備	教委総務課
宮古市立津軽石小学校ほか1校トイレ洋式化工事	津軽石、重茂	R3.2.19~R3.6.18	31,790,000	(株)小成良治商店	教委総務課
千鶏地区漁村再生(用地)工事	重茂第11地割	R3.2.19~R3.3.31	25,707,000	(有)関川建設工業	水産課
1災503号御平線外9件災害復旧工事	重茂第8地割 ^{ほか}	R3.2.26~R4.3.15	130,130,000	沢与建設(株)	建設課
1災357号上楯待門沢線外2件災害復旧工事	田老字上楯待	R3.2.26~R4.3.15	69,465,000	アート工業(株)	建設課
1災182号小堀内川外1件災害復旧工事	田老字向新田	R3.2.26~R4.2.10	26,653,000	アート工業(株)	建設課

宮古保健所から

●エイズ即日、肝炎ウイルス、性器クラミジア、梅毒、HTLV-1の各検査（原則毎月第2火曜日）

エイズなどに関する検査は、匿名で受けられます。エイズ即日検査は採血後30分で結果を通知します。肝炎ウイルス、性器クラミジア、梅毒、HTLV-1の各検査は10日後以降に結果を通知します。

■日時 4月13日(火)午後4時～5時

※前日までに要予約

■場所 宮古保健所

●骨髄バンク登録（原則毎月第2火曜日）

■日時 4月13日(火)午後1時～2時

※前日までに要予約（予約時に登録要件を満たすかどうかを確認するための聞き取りをします）

■場所 宮古保健所

●自殺関連こころの相談

ストレスや不眠などの悩み、自死遺族などの相談に保健師が応じます。

■日時 4月8日(木)午前10時～正午

※前日までに要予約

■場所 宮古保健所

●精神保健相談

引きこもりやうつ状態、不眠や不安、物忘れなどの悩みで専門の医師が応じます。

■日時 4月8日(木)午後1時30分

※6日(火)までに要予約

■場所 宮古保健所

■対象 精神科・心療内科を受診したことがない人

<共通>

■申し込み 宮古保健所

●健康相談日程

感染症予防に努めながら、血压測定、個別相談などを行います。気軽にお越しください。なお、健康手帳をお持ちの方は持参してください。

地域	期日	時間	場所	内容
宮古	4/26(月)	①13:30 ②13:45 ③14:00 ④14:15 ⑤14:30	イーストピアみやこ2階創作スタジオ	・血压測定、個別相談、大腸がんについて ※予約制による個別健康相談（30分程度）になります ※申し込みが必要です。22日(木)までに①～⑤の希望時間を宮古保健センターに電話で申し込んでください

●休日急患診療所、祝日当番歯科医療機関の診療日

●休日急患診療所

感染症対策のため、当分の間、午後は発熱などの症状のある人のみ診療します。予約制となりますので、当日の受付時間内に電話予約してください。

■診療日 4月の毎週日曜日と29日(休)

■受付時間 午前9時～午後5時

■診療内容 【午前】内科・外科の応急的な診療（発熱などの症状のある人を除く）

【午後】発熱などの症状のある人のみ診療（要予約）

■問い合わせ 休日急患診療所（西町一丁目6の2、☎64-0113）

●祝日当番歯科医療機関

救急患者を対象に歯科診療をします。電話を入れてから来院してください。

■診療日/当番歯科医療機関

▷4月29日(木)/デンタルクリニック駒井（上鼻二丁目2の1、☎63-6188）

■受付時間 午前9時～午後3時

●ヨイ歯デーテレホン相談

歯や口の中の健康に関する無料の電話相談です。1993年以降毎年、4月18日には「ヨイ歯デーテレホン相談」11月8日には「イイ歯デーテレホン相談」として実施し、県民の皆さんの歯科に関する悩みの解消のお手伝いをしています。

■相談予約受け付け 4月19日(月)午前10時～午後7時（18日が日曜日のため、19日(月)に開催します）

※上記時間内に相談を受け付け、午後7時以降に岩手県保険医協会の歯科医師が相談者に折り返し電話で回答します

■受け付ける相談内容 歯またはお口に関する悩みについてなんでも

■相談料 無料

※相談予約時の通話料は相談する人の負担となります

■相談先 岩手県保険医協会ヨイ歯デーテレホン相談係（☎019-651-7341）





図書館情報

- 開館時間
 - 市立図書館…水～土曜日 9:00～19:00、火曜・日曜・祝日 9:00～17:00
 - 田老・新里・川井分室…火～日曜日 9:00～17:00
- 4月の休館日
 - 市立図書館・田老・新里・川井分室…月曜日

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、図書館や分室で予定しているおはなし会・映画会を中止する場合があります

市立図書館 

【特集】「スタート」

『年収を10倍にする習慣術』

鴨頭 嘉人 (著)



人生が変わる習慣コントロール法を実践的かつ具体的に、よりわかりやすく解説。成功者になるための10ヶ条や、世界的な成功者が持つ習慣も紹介。

◇展示コーナー

特集「がんばれいちねんせい」(こども図書室前)

ピカピカの一年生を応援する本を紹介します。

◇こども映画会 (視聴覚室)

- ① 4月3日(土)午前11時、午後2時
▶「ミッキーマウス ～プルトの誕生祝い～」(8分)、「NHK こどもにんぎょう劇場 世界編④ ～ブレーメンの音楽隊～」(15分)
- ② 4月10日(土)午前11時、午後2時
▶「おしりたんてい ～ププッ ブラウンものがたり～」(20分)
- ③ 4月17日(土)午前11時、午後2時
▶「ふるさと再生 日本の昔ばなし ～おむすびころりん/夢を買った男～」(15分)、「トムとジェリー ～可愛い子猫と思ったら～」(8分)
- ④ 4月24日(土)午前11時、午後2時
▶「あらしのよるに ～おばあちゃんのとちだち～」(25分)

◇おはなし会 (こども図書室)

期日=毎週土曜日

時間=午後2時30分

内容=絵本・紙芝居の読み聞かせ

田老分室
(田老公民館内)

【特集】「あれこれ悩まず、自分らしくありたい…!!」

心の深呼吸をして穏やかになりたい時…おすすめしたい本です。

新里分室
(新里生涯学習センター内)

【特集】「すてきな庭づくり」

庭づくりに役立つ本を紹介します。

川井分室
(北上山地民俗資料館内)

【特集】「春の草花特集」

ぽかぽか陽気に誘われて、外へ出てみると…。

第41回手づくり絵本展

「読書週間」にあわせて県立図書館が募集した、手づくり絵本の巡回展示を行います。

【市立図書館】

■期間 4月29日(木)～5月2日(日)

【田老分室】

■期間 4月22日(木)～25日(日)

【新里分室】

■期間 4月15日(木)～18日(日)

【川井分室】

■期間 4月8日(木)～11日(日)

移動図書館車 「うぐいす号(田老・新里・川井)」 4月の運行日程

場 所		運行日・駐車時間	
新里	和井内・和井内深山産直付近 刈屋・澤口氏宅前 刈屋・高橋理容所前 新里中学校前 愛福祉会前	1日	10:40～10:55 11:00～11:15 11:30～11:45
	新里中学校前	15日	13:10～13:30
	愛福祉会前	(木)	13:45～14:00
	茂市駅前		14:15～14:30
	墓目駅付近		14:45～15:00
田老	櫻内・宮古市消防団第29分団櫻内器具置き場付近 末前・伝承館前 三王災害公営住宅10号棟付近 グループホームおもつぱ 三陸鉄道摂待駅付近	2日	10:15～10:30 10:50～11:05
		16日	11:20～11:35
		30日	13:00～13:30 13:45～14:00
		(金)	
	崎山・グループホームたろう		14:30～14:00
川井・関伊川コース	平津戸 門馬出張所前 柳渡氏宅前 ウォーキングセンター 大倉氏宅前	14日	9:55～10:05 10:15～10:30 10:40～10:50 11:00～11:10 11:15～11:40
	「道の駅」区界高原 やまびこ産直館 特産品加工施設 川井中学校 好心寺 箱石地域振興センター 片巢御供養様前	(水)	11:45～11:50 12:35～12:45 12:50～12:55 13:05～13:35 13:45～13:55 14:00～14:10 14:20～14:30
	ユニット前 赤沢集会所前 上湯沢集会所前 小国出張所前 横道氏宅前 大久保バス停付近 川井小学校 むつわ荘	21日	9:40～9:50 10:00～10:10 10:20～10:30 10:35～11:00 11:10～11:20 11:30～11:40 13:05～13:45 14:00～14:20
		(水)	

4月から なぎさ号リニューアル!

4月からなぎさ号が新しくなります。“なぎさ”をイメージした水色の車体にサーモンくん、みやこちゃんと海の生き物のイラストが描かれています。



各種無料相談 ～一人で悩まずに～

4月の無料相談会の日程です。気軽にご利用ください。

相談	日時	場所	予約・問い合わせ
★弁護士相談	毎週木曜日午前10時～午後3時 ※1日(木)・29日(木)を除く	市市民相談室(市役所1階、☎68-9081)	
人権相談	宮古 毎週水曜日 午前10時～午後4時	盛岡地方法務局宮古支局(☎62-2337)	
行政相談	宮古	13日(火)午前9時～正午	市市民相談室(市役所1階、☎68-9081)
	田老	7日(水)午後1時30分～3時30分	田老総合事務所(☎87-2111)
	★新里	19日(月)午前9時30分～11時30分	新里福祉センター 新里総合事務所(☎72-2111)
公証人相談(遺言相談)	20日(火)午前9時～正午	宮古公証役場(陸中ビル2階、☎63-4431) ※左記以外に相談希望日があればご連絡ください	
★くらしとお金の安心相談会	1日(休)午後1時～5時 ※前日までに要予約	中央公民館分館(保久田)	信用生協盛岡事務所 (☎019-653-0001)
★岩手県交通事故相談	27日(火)午後1時～3時 ※前日正午までに要予約	市市民相談室・消費生活センター(市役所1階、☎68-9081)	
★災害復興住宅融資相談会	21日(水)午後2時～4時 ※前日午後5時までに要予約	市役所内	住宅金融支援機構 (☎0120-086-353)

4月の各種無料相談(★は要予約)

県内どこでも行きます！ 金融経済教育「出前講座」

無料で、各学校、学童クラブ、セミナーなどで、子どものうちから「お金について、十分な知識を持ち」「お金の付き合い方について適切に判断する力を身につける」金融経済教育や金融犯罪被害防止の出前講座を行っています。

■講座メニュー

《金融経済教育講座》

- ①お買い物ゲームをやってみよう！(小学校低学年)
- ②マネープランゲーム旅行にGO！(小学校中・高学年)
- ③これから気をつけるお金の使い方(中学校)
- ④社会人になる前に必要な金融知識(高等学校)
- ⑤金融回避トラブル能力を学ぶ(高等学校)

《金融犯罪被害防止講座》

- ⑥キャッシュカード詐欺などの金融犯罪被害にあわないために(一般)

※45分～2時間程度

■実施期間 月～金曜(祝日、年末年始除く)

■場所 申し込みする団体で用意してください

■申し込み 東北財務局盛岡財務事務所理財課
(〒020-0023盛岡市内丸7の25、☎019-625-3353、
FAX 019-622-7482)

ひとりで悩まず、まずは無料でご相談を！ 「多重債務無料相談窓口」

「借入金の返済にお悩みの人」「ご家族の借入金をご心配の人」「亡くなったご家族の借入金でお困りの人」。

専門相談員がお悩みを丁寧にお聞きし、必要に応じて法テラスや弁護士などに引き継ぎを行います。**秘密厳守で対応します。**

■相談時間 月曜～金曜午前8時30分～正午、午後1時～午後4時30分

※祝日、年末年始除く

■相談料 無料

■相談電話 東北財務局盛岡財務事務所(盛岡市内丸7の25盛岡合同庁舎4階、☎019-622-1637)



裁判所や調停で決まったのに 相手がお金を支払ってくれない

裁判所の情報取得手続きで相手(債務者)の財産を調べられます。詳しくは最寄りの地方裁判所に問い合わせてください。

■問い合わせ 盛岡地方裁判所事務局総務課庶務係(☎019-622-3342)

宮古市地域創生センター

▼新年度「定期教室」生徒募集

《生花教室》 ●日時 11月1日 火曜午後7時～9時 ●講師 小金淵陽子(草月流) ●定員 12人 ●材料費 各回1200円 ●用意する物 花切りばさみ
 《茶道教室》 ●日時 第2・第3水曜午後7時～9時 ●講師 細越静子(表千家) ●定員 12人 ●材料費 各回300円 ●用意する物 白い靴下

《共通》 募集期間 随時

▼ジャガイモ栽培体験
 ●日時 4月24日(土) 午前10時～12時
 場所 宮古市地域創生センター ※2回目以降は花輪の畑(参加者にお知らせします) ●内容 小学生を対象に、農業体験を行います。春に種イモを植え、夏に収穫して食べるまで全6回の体験講座です。夏休みの自由研究にも最適です ●対象 小学生 ●定員 12人 ●参加料 2千円(全6回分) ※親子参加は3千円 ●用意する物 筆記用具(初回)
 ▼宮古に生息する野生動物の生態を知る 獣害(クマ、イノシシなど)から人や作物を守るための術を探る座談会
 ●日時 4月27日(火) 午後7時～9時
 内容 近年、私たちの生活と野生動物との距離が近くなり、クマ、シカ、イ

開催・募集など

▼「畑づくり」参加者募集

ノシシ、カラスなど、野生動物による人身被害や農作物被害、家屋侵入などのトラブルが多発しています。このような生活被害を避けるために、宮古に出没する野生動物の特徴や生態について知り、少しでもトラブルを避ける方法について専門家を招き座談会形式で学びます ●講師 攝待義男(宮古地域猟友会会長) ●定員 15人 ●参加料 2000円 ●用意する物 筆記用具
 《共通》 ●その他 マスクの着用をお願いします ●場所 問い合わせ 宮古市地域創生センター (☎0771-33) ※3月31日までは ☎0771-2

●日時 4月～11月ごろまで(月2回程度、平日午前中) ●場所 長沢地区 ●内容 土作りから収穫まで、やり方を教えてもらいながら実践します。トウモロコシ、スイカ、ヤーコンなど10種類以上の野菜を参加者の皆さんと一緒に育てます。野菜作りを学びたい人、土に触れたい人、皆さんと作業する時間を楽しみたい人など、ご参加をお待ちしています。毎回、作業内容の説明がありますので、初めての人も安心してご参加ください。詳細については、お気軽にお問い合わせください ●参加料 4千円(年間、保険料込み) ●用意する物 作業ができる服装(園芸用

手袋、長靴、帽子など) ●申し込み 特定非営利活動法人ふれあいステーション・あい(☎041-17)

▼みやこフォトクラブ写真展2021

●日時 4月2日(金)～4日(日) 午前10時～午後5時 ※4日(日)は午後4時まで
 場所 市立図書館2階展示室 ●問い合わせ みやこフォトクラブ・小和田(☎04391)

▼英語を楽しく学びませんか?

●日時 4月2日(金)から毎週水曜・金曜午後7時～8時30分 ●場所 千徳公民館 ●内容 外国人の先生と一緒に、出席者のレベルや要望に合わせた内容の授業を楽しく行います ●参加料 各回500円 ●用意する物 英語辞書、筆記用具、マスク ●申し込み 英語サークル・佐々木(☎090-5845-1484)

▼合気道河南教室 楽しみながら健康づくりと新しい発見を

●日時 4月2日(金)から1年間、毎週金・土・日曜 ※時間は午後1時～9時の間で参加者の希望に応じます ●場所 河南中学校武道場 ●内容 技の修練を通して心を磨き、体を鍛え、礼節を尊重する態度を養うなど豊かな人間性を目指します ●対象 小学生からお年寄りまで ●参加料 無料 ●用意する物 運動着、飲み物 ●申し込み 合気道研究会・日高(☎090-53355-1061)

▼「岩泉線レールバイク」運行開始の

お知らせ

●日時 4月3日(土)～11月28日(日)の土・日・祝日 午前10時～午後3時(毎時発車) ※4人以上の団体の場合は平日でも運行 ●場所 「発着」旧JR岩泉線岩手井内駅(旧中里駅で折り返し) ●参加料 1台2千円(2人乗りまたは4人乗り) ●その他 一緒に地域おこしに参加していただける運営ボランティアを募集中です ●問い合わせ 岩泉線レールバイク(☎080-5564-2310)

▼ラグビースクール生徒募集

●日時 「活動日」毎週日曜午前9時～11時 「開校式」4月4日(日)(予定) ●場所 へいがわ老木公園ラグビー場 ●参加料 年間1万円 ●問い合わせ 宮古ラグビースクール・山本(☎080-2803-1885)

▼シネマ・デ・アエル・マンズリーセレクト 『止められるか、俺たちを』上映

●日時 ①4月9日(金) 午後7時 ②4月10日(土) 午前10時30分 ③4月10日(土) 午後1時30分 ※開場は各回上映30分前 ●参加料 1200円(中学生以下無料) ●場所 問い合わせ シネマ・デ・アエル(東屋「蔵」内「本町2の2」) ☎070-5320-5274

▼崎山姉ヶ崎探鳥会

●期間 4月11日(日) 午前8時30分～10時30分 ●場所 休暇村陸中宮古西側駐車場 ●内容 小鳥と巣箱(小鳥とリス・ムササビ用)、海岸のウミウの繁殖など

三陸太鼓フェスティバル2021 ～震災から10年、響け！心の鼓動～

- 日時 5月2日(日)午後1時開演(正午開場)
- 場所 市民文化会館大ホール
- 内容 東北各地および三陸地域の太鼓演奏団体を招き、震災の犠牲者の慰霊と復興へのさらなる決意を込めた競演会を行います
- 出演 鼓風、利府太鼓、山木屋太鼓、大館曲げわっぱ太鼓、宮古あばれ太鼓、山口太鼓の会
- 定員 500人
- 入場料 【前売/自由席】(一般)2千円、(高校生以下)千円
- チケット発売開始日 4月1日(木)
- チケット取り扱い 市民文化会館、リラパークこなり、マリンコープDORA、かんの書店、宮古市職員生協、もりおか町家物語館
- 問い合わせ 宮古市民文化会館(☎63-2511)



勇壮な演奏を披露する山口太鼓の会

第40回さけ稚魚壮行会

- 日時/場所
- ①4月15日(木)午前10時30分/津軽石川河川敷会場
- ②4月16日(金)午前10時/閉伊川スポーツ公園会場
- 内容 サケの稚魚を放流します。宮古市民の方であればどなたでも参加できます。
 ※雨天の場合は中止します
- 用意する物 長靴
- 問い合わせ 市観光課もてなし観光係(☎68-9091)



サケがたくさん帰ってくることを願いみんなで放流しましょう

の観察。初心者大歓迎●その他「マスク着用をお願いします」●問い合わせ「日本野鳥の会宮古支部・関川(☎4725)▼森を考える会」林業体験

●日時 4月17日(土)午前9時～午後2時 ●場所 箱石林業者センター(崎山第7地割101) ●用意する物 昼食、飲み物、長袖、長靴、タオルなど ●参加料 無料 ●申込期限 4月16日(金) ●申し込み 齋藤(☎090-7660-0348)

▼西ヶ丘カフェ

●日時 4月28日(水)午後1時30分～3時 ●場所 西ヶ丘地区センター ●内容 認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるための学びと会話を楽しむ力

フェ ●対象 西ヶ丘にお住まいの人 ●定員 先着30人 ●参加料 200円(お茶菓子代) ●申し込み みやこ西部地域包括支援センター(☎5771)

▼「曉野球リーグ」参加チーム募集

●開催期間 5月～8月 午前5時30分～6時45分 ●場所 小山田ふれあい公園野球場 ●対象 市内成人チーム ●申込期限 4月18日(日) ●申し込み 宮古バツファローズ・中島(☎090-9538-5900)

▼「閉伊川紙作品展」の出品者募集

●内容 地元原料で漉いた、手漉き和紙「閉伊川紙」を使って作品を作って

みませんか。提供するA3サイズの紙で創作し、作品展に出していただけの人を募集します。作品展は11月下旬の予定です ●応募期限 4月15日(木) ●その他 作品ジャンル、他素材との組み合わせなどは自由。詳細は問い合わせください ●問い合わせ 紙漉き屋群青・栗橋(☎090-3982-5243)

▼介護のしごと「定期出張相談会」

●日時/場所 ①毎週月曜午前10時～午後3時/宮古市総合福祉センター ②毎週火曜午後1時～3時/ジヨブカフエ宮古(キャトル5階) ③毎月第3木曜午後10時～12時/ハローワーク宮

古 ●対象 福祉の職場に関心のある人や就労を希望する人 ※予約者優先 ●問い合わせ 岩手県福祉人材センター 宮古・館洞(☎080-8201-0199)

▼「中止のお知らせ」令和2年度花柳琢和加「をどりの会」

●令和2年4月12日(日)から延期していましたが「令和2年度花柳琢和加」をどりの会 は全国的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止とさせていただきます。次回開催につきましては、改めて状況を踏まえご案内します ●問い合わせ 和加の会 吉田(☎5385)

市内商品内容量の計量モニター募集

.....市産業支援センター

正しい計量の普及と啓発のため、市内で購入した商品の内容量の検査に協力いただける「計量モニター」を募集します。

■説明会日時/会場 5月21日(金)午後1時30分/イーストピアみやこ2階創作スタジオ

■職務内容 普段の買い物で購入した肉・魚・野菜・粉・めん類などの内容量を、貸与するはかりで計量・記録し、市へ報告する

■対象 世帯員2人以上の主婦(夫)で説明会に出席できる人

■募集人数 先着5人(未経験者優先)

■任期/謝礼金 5月22日(土)~6月21日(月)/5千円

■申込期限 4月23日(金)

※受け付け時間は午前8時30分~午後5時

■申し込み 市産業支援センター商業労務係(☎68-9067)

国民年金保険料の学生納付特例制度のお知らせ

.....宮古年金事務所 ほか

国民年金は、日本に住む20歳以上60歳未満の全ての人に加入義務があります。ただし、学生である期間は、本人の所得が一定以下の場合、保険料の納付が猶予される「学生納付特例制度」があります。

猶予期間は4月から翌年3月までの1年間となります。翌年度も在学予定の場合は4月初めに再申請の用紙が届きますので、引き続き希望する場合は、必要事項を記入の上、申請してください。また、学生納付特例の期間は、将来受け取る年金額に反映されません。将来受け取る年金を増額するために、後から納付することをお勧めします。

■申請受付場所 市総合窓口課(市役所1階)、各総合事務所、各出張所、宮古年金事務所(太田一丁目7の12)

■用意するもの 在学証明書(原本)または有効期限や学年の記載された学生証、基礎年金番号が分かるもの

■留意事項 ①本制度は、毎年度手続きが必要です。②過去2年分(2年1カ月前)までさかのぼって手続きをすることができます。③猶予の承認期間中の保険料については、10年以内であればさかのぼって納めることができます。保険料を納めると、将来受け

取る年金額が増えます。④猶予の承認期間中は障害基礎年金や遺族基礎年金の受給要件にも該当しますので、万が一の時も安心です。

■問い合わせ 宮古年金事務所(☎62-1963) 市総合窓口課市民窓口係(☎68-9077)

遺跡調査報告書の公開を始めました

.....市埋蔵文化財センター

市が刊行した遺跡調査報告書を市ホームページ(<https://www.city.miyako.iwate.jp/bnka/bunka.html>)で公開します。先人の暮らしぶりを伝える遺跡の情報が気軽に閲覧できます。遺跡が意外に身近にあり、多種多様な出土品から宮古地域が昔から文化的で豊かであったことが見えてきます。ぜひ閲覧ください。

■問い合わせ 市埋蔵文化財センター(☎65-7527)

OneTeamで山火事予防!

.....宮古消防署

全国的に林野火災が多発し、乾燥と強風から大規模なものとなっています。出火原因別にみると、林野火災の多くは、たき火、火入れ、たばこの投げ捨てにより火災が発生していますので、次のことに注意してください。

①風が強い時や空気が乾燥している時は、たき火、火入れ、野焼きはしない②燃え広がりやすい枯草などのある場所では、野焼き、たき火をしない③野焼きやたき火は一人で行わず、消防署に届け出て、少量ずつ燃やし、必ず水など消火の備えをする④山に入る時はたばこを吸わない

■問い合わせ 宮古消防署(☎62-5533)

宮古市内の交通事故・犯罪件数 (2月1日~28日)

■交通事故件数

▷人身事故=4件、▷死亡者=0人

▷負傷者=6人、▷物損事故=71件

■犯罪件数

▷自転車盗=1件(無施錠1件)、▷万引き=4件、▷振り込め詐欺=通報3件(被害0件)、▷もうけ話の詐欺=通報0件、▷子どもへの声かけ事案など=6件

※子どもと女性の安全確保・特殊詐欺の被害防止・鍵かけの実施を心がけましょう

■問い合わせ 宮古警察署(☎64-0110)

※届け出の際、広報への掲載を希望した場合に載せています。住所については、行政区または土地の名称で記載されています。

おめでた おくやみ

3/1~3/12(届け出順・敬称略)

○生まれた赤ちゃん○

鈴木愛優(あゆ) 大通三丁目(美由)
伊藤煌劉(きりゅう) 神田沢町(翼)
桜庭一華(いちか) 近内五丁目(一美)
伊藤暖真(はるま) 神林(将太郎)
小笠原由茉(ゆま) 実田二丁目(直樹)
大久保柚葉(ゆずは) 松山(有真)

♡結婚したお二人♡

山崎敏和・田村寿子=下町(津軽石)

千葉 優・藤原由紀=上荒谷

■亡くなった方■

内館ミナ (82) 松山
永洞牧男 (73) 松山
吉田文彦 (67) 長沢四
昆 勝郎 (81) 泉町
下村紀里子 (66) 崎山二
下山サチ (92) 本町
佐々木ハマ (97) 高浜二丁目
小向キヨミ (83) 青倉
吉田みゆき (48) 南町
小松倉 進 (82) 長沢四
吉田美栄子 (56) 板屋四丁目

木村俊明 (65) 西ヶ丘三丁目
中島茂人 (88) 養呂地
畠山恭政 (86) 日影町
大村昭治 (83) 黒森町
下山芳江 (69) 大平2
大下喜平 (91) 田老三王三丁目
村上キウ (100) 館合町
坂下レイ子 (88) 沼里
影田久保エイ (96) 大平2
内藤房子 (94) 長根二丁目
安保廣行 (70) 田鎖四
山崎 忍 (82) 小田代
木村富士子 (64) 近内六丁目

お知らせ

- 宮古市役所 ☎62-2111
(宮町一丁目1の30、イーストピアみやこ内)
- 田老総合事務所 ☎87-2111
- 新里総合事務所 ☎72-2111
- 川井総合事務所 ☎76-2111

人口と世帯

※3月1日現在
※()内は前月との比較

人口	男	女	世帯
50,422人	24,251人	26,171人	23,389
(-68)	(-19)	(-49)	(-15)

人口のうごき

※2月1日～28日

出生	死亡	転入	転出
27人	73人	55人	77人

「安庭山荘」4月8日(木)から今年の営業開始

..... 市新里総合事務所

- 料金 【2時間以内(入浴1回)】400円(60歳以上の市民=300円、小学生=200円)【2時間以上(繰り返し入浴可)】910円(60歳以上の市民=610円、小学生=450円)
- 送迎 10人以上の団体は送迎します(要予約)
- 問い合わせ 市新里総合事務所住民生活係(☎72-2114)

市民交流センターの開館時間の変更

..... 市民交流センター

4月1日(木)から、市民交流センターの開館時間を変更します。

変更前	変更後
午前9時～午後9時30分	午前9時～午後9時

- 問い合わせ 市環境生活課市民交流センター(イーストピアみやこ2階事務室、☎63-4166)

宮古市再生可能エネルギー推進会議委員を公募

..... 市エネルギー推進課

市は、宮古市再生可能エネルギービジョンに掲げる基本目標の達成に向けた取組みに関し意見などを求めるため、推進会議委員を募集します。

- 募集人数 3人
- 応募条件 次の条件を全て満たす人。
①令和3年4月1日現在で満18歳以上の人②市内に引き続き3カ月以上住所を有している人③市の他の審議会などの委員を3つ以上兼職していない人④再生可能エネルギーに関心があり、年4回程度開催する推進会議に出席できる人
- 任期 任命の日から2年間
- 申し込み方法 応募用紙と小論文「私が描く2050年の宮古市」(600字程度)を持参・郵送・ファクス・メールで提出してください。応募用紙は、エネルギー推進課(市役所4階)で配布するほか、市ホームページ(☎<https://www.city.miyako.iwate.jp/energy/saieneiinkoubo.html>)からダウンロードできます。
- 申込期限 4月23日(金)必着
- 申し込み 市エネルギー推進課エネルギー推進係(〒027-8501住所不要、☎68-9079、FAX63-9114、☎energy@city.miyako.iwate.jp)

手話を学び、地域に貢献してみませんか?

..... 市福祉課

手話奉仕員養成講座(今年度は、入門課程のみ)を開催し、受講生を募集します。

- 期日 5月20日(木)～令和4年3月17日(木)までの間の木曜日(全21回)
- 時間 午後1時30分～3時10分

※教科で若干時間が異なります

- 場所 イーストピアみやこ
- 対象 宮古市在住の18歳以上の人
- 募集人数 10人程度
- 参加料 無料(ただし、テキスト代3,240円は自己負担となります)
- 申込期限 4月16日(金)
- 申し込み 市福祉課障がい福祉係(☎68-9135)

スマートフォン決済アプリを利用して市税などが納付できます

..... 市税務課 ほか

令和3年4月から、スマートフォンのアプリを利用して市税などが納付できるようになります。

納付書に記載された納期限内であれば、納付書のバーコードを読み取るだけで、自宅などからいつでも納付ができます。

- 対象となる市税など
固定資産税、市県民税普通徴収、軽自動車税(種別割)、国民健康保険税、上下水道料金
- 市税などが納付できるスマートフォンアプリの種類
LINE Pay(ラインペイ)、PayPay(ペイペイ)、PayB(ペイビー)
- スマートフォン決済の注意事項
①領収書は発行されません。領収書が必要な場合は、金融機関、コンビニエンスストア、市役所などの窓口で納付してください②納税証明書などの発行は納付情報を確認できた日以後しかできません。納付確認には、2週間程度かかる場合があります③納付書に添付されている軽自動車納税証明書は利用できません。市役所、各総合事務所、各出張所で申請すれば無料で交付となります
- 問い合わせ【市税】税務課収納係(☎68-9074)【上下水道料金】経営課料金係(☎63-1115)

里親として子どもの成長を応援しませんか?

..... 岩手県宮古児童相談所

さまざまな事情により家庭で生活を送ることができないなど、心配な日々を送る子どもがいます。そのような子どもが毎日を安心して生活できるように、家に迎え入れて養育する里親制度があります。子どもたちの健やかな成長を応援しませんか?

「里親のことをもっと詳しく知りたい」など、少しでも興味がありましたら下記まで問い合わせてください。

【特にお願いしたい人】乳幼児や中高生を受け入れできる人

5月から6月にかけて里親になるための養育里親・養子縁組里親研修を開催予定です。関心のある人は下記まで問い合わせてください。

- 問い合わせ 岩手県宮古児童相談所(☎62-4059)

生きる力を育む事業補助金

活用事業を募集します

■対象事業

市内の小中学生を対象に、生涯を通じて学び続ける資質や能力を育成し、変化の激しい社会を生き抜く力を養うため、令和3年度に実施・完了できる次のソフト事業

①健康な体を育む事業 スポーツ教室、スポーツレクリエーション大会の開催 など

②豊かな心を育む事業 演奏会、ワークショップ、体験学習、ものづくり体験、世代間交流の実施、読書活動の推進 など

③確かな学力を育む事業 講演会、自主学習の場の提供 など
※対象外となる事業など 建物の建築や修繕、土木工事、実施団体の人的経費、通常の活動経費（家賃、備品など）、営利を目的とした事業

■対象者 市内に住所または活動の本拠地がある団体、法人、個人
※事業を確実に遂行できる見込みがあること

■補助金上限額 1事業当たり80万円（補助金総額は400万円）
※他から補助がある場合は、その

額を減額

■募集期限 4月26日(月)

■応募方法 申請書に必要事項を記入し、持参または郵送。申請書は市教育委員会総務課（市役所3階）、田老・新里・川井の各総合事務所で配布

※市ホームページ（https://www.city.miyako.iwate.jp/kyouiku/kyouiku_shinkoukikin_hojyo_bosyuu.html）からダウンロードできます

■事業の採択 教育振興基金審査委員会での審査のうえ決定します

■応募先 市教育委員会総務課総務係（〒027・8501住所不要、☎9114）



スタジオから

春の暖かさを感じる今日この頃、皆さんいかがお過ごしですか。進学や就職・転職などにより、環境が大きく変わったという方、良いスタートは切れましたでしょうか。

みやこハーバーラジオでは、ひるなび826日替わりコーナー「あなたも挑戦！みやこクイズ！」を毎週木曜日、午後1時ごろから放送しています。このコーナーでは、宮古に関する問題を毎週一問出題しています。宮古市で行われているイベントをはじめ、宮古市の文化・歴史・自然に至るまで幅広いジャンルの問題を出題しています。例えば「今年1月に重茂地区にオープンした宮古市重茂水産体験交流館の愛称は、次のうちどれでしょうか」

① やっしょまかしよ ② えんやあどっと ③ やーやどー

皆さんお分かりですか？答えは②の「えんやあどっと」です。クイズに挑戦して、宮古のあるある・宮古の魅力を再発見しましょう。正解は、次の週の「あなたも挑戦！みやこクイズ！」で発表いたします。皆さんの挑戦を、今週もお待ちしております。

●「みやこハーバーラジオ」放送中！

FMラジオ【82.6MHz】

●インターネットの「リスラジオ (ListenRadio)」(<http://listenradio.jp>)や「サイマルラジオ」(simulradio.info/)でもお聴きいただけます。

※川井地域は川井テレビ(11ch)で放送中です

●お便り・ファクス・メールおまちしています

〒027-0076宮古市栄町3-35 キャトル4階
みやこハーバーラジオ宛て

FAX 77-3936 ☎826@miyakofm.com

■問い合わせ 宮古エフエム放送(☎77-3399)



北上山地民俗資料館の資料紹介

「昔のはき物」

市教育委員会文化課 編

「わらじ」や「つまご」は、稲わらで作られた昔のはき物の代表です。「わらじ」は夏場の山仕事や遠出をする時に、「つまご」は雪の季節の山仕事、あるいは味噌作りで熱い豆を踏みつぶす作業の時など、どちらも日常生活で足を守るはき物としてなくてはならないものでした。

北上山地では、夏場の冷涼な気候や、平地が少ない土地の条件のため、水田が開かれたのは終戦後というところがほとんどです。それ以前は、購入した米俵をほどいたり、水田のある地域から譲り受けたりして稲わらを手に入れました。苦勞してまで稲わらにこだわったのは、はき物の素材として保温性に優れているからです。他に、家の内外ではく「ぞうり」や、蹄を守るため牛馬にはかせた「わらじ」もわら製です。

当館では、昔の道具についての技術や情報を伝えていきたいと、もの作りの体験教室を企画しています。

日常生活で「わらぞうり」をはく機会はほとんどないと思いますが、「布ぞうり」はいかがでしょう。家の中ではくことができる「布ぞうり」を作る体験講座は、今年も夏と冬に開催する予定です。



稲わらで作られたさまざまなはき物（左上から「すんべ」「わらじ」「ウマのわらじ」左下から「ぞうり」「つまご」、当館蔵）



布ぞうりを作る様子（令和2年度の布ぞうり作り教室の様子。当館開催）

市長のひとり言

東日本大震災の発災から10年が経ちました。災害への備えを忘れないよう、市では毎年3月11日に津波避難訓練を行っています。今年は日本海溝・千島海溝沿いで想定される最大クラスの地震と津波による訓練を実施しました。

津軽石川では、市役所からの遠隔操作による水門の閉鎖訓練を行いました。しっかり閉まることを確認でき、ホッとしました。

赤前小学校では、参加者の体温測定や手指消毒など、新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた初めての避難所開設訓練を実施しました。発熱した方などに使う簡易パーテーションの設置も行われ、参加者からは「周りと隔離されていて安心」「暖かい」「ベットの寝心地がいい」などの声をいただきました。「宮蘭フェリー」で繋がる隣町・北海道室蘭市からは町内会連合会の方々が訓練の視察をされていました。室蘭市とは災害時の支援協定を締結しております。こうした絆が続いていることを頼もしく思います。

午後には「宮古市東日本大震災追悼式」を行いました。コロナ対策で規模を縮小しての実施でしたが、10年の歳月を振り返りながら、お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りしました。

津波で大切な人を突然失う悲しみは、もう誰にも経験してほしくありません。そのためには何より訓練、訓練です。備えましょう。みんなです。



避難訓練の様子を確認する山本宮古市長

俳句に親しむ

季題「鯨」「春障子」

さいとう白沙 選

【特選】

配達夫横切る影や春障子

岩泉美佳子

評||障子に移る影を捉え、春の明るさと同時に作者の心理をうまく詠みこんでいる。

岸浜の白き濁りや鯨群来

太田屋 滋

評||光景は鯨の大量による命のバトンパス。しかし、近年はあまり見られなくなっている。

【入選】

日本海にしんに湧きし日の遠く

加藤信子

七輪で炙るにしんの干物かな

金沢光郎

独り居の身の気楽さや春障子

佐々木俊子

小骨よけ食す夕餉や焼き鯨

齋藤大弓

鯨焼き父のごつい手思い出す

坂下由美子

まどろめば亡き母の影春障子

橘 さつき

おさな児の影絵の犬よ春障子

永田ハナ

やわらかき目覚めの光春障子

長塚忠雄

◆次の季題「蒲公英」「春鷗」※4月5日(月)必着

◆応募は一人3句までです。◆いただいた句を添削することがあります。◆はがきまたは封書で、句のほかに住所、氏名、ふりがな、電話番号を書いて、〒027-8501(住所不要)宮古市役所「広報みやこ」係へ応募してください。◆今回の投稿者は35人でした。ありがとうございました。

【選者より】○歳時記を活用しましょう。表記は仮名、漢字どちらでも。○小中高生の作品歓迎。学年明記、他は一般に準じます。◇選者詠「水門のいまだ未完や雪濁り 白沙」



◎ 宮古市東日本大震災追悼式で献花を行う参列者



田老防潮堤で犠牲者を追悼する参加者



◎ ライトアップされた浄土ヶ浜遊覧船の前でスカイランタンを飛ばす参加者

東日本大震災追悼

東日本大震災から10年の節目に合わせて、市内ではさまざまな形で犠牲者への追悼が行われました。3月7日には、田老防潮堤で黒森神楽保存会による東日本大震災の犠牲者追悼の神楽念仏が行われました。3月11日には、宮古市東日本大震災追悼式が市民文化会館で実施され、約350人の参列者が亡くなられた方のご冥福を祈り、それぞれの10年間に思いをはせていました。三陸鉄道では、閉伊川橋梁の上で一時停止し、乗客は祈りを捧げていました。田老防潮堤では、集まった600人が犠牲者を追悼し、風船を空に飛ばしました。午後7時には、浄土ヶ浜遊覧船発着所で浄土ヶ浜遊覧船鎮魂ライトアップが行われ、中川太治の会による演舞とスカイランタン灯火式で犠牲者を悼みました。



犠牲となった方々への供養を行いました



三陸鉄道の車内で黙祷する乗客

編集後記

▼千徳小学校児童の新聞コンクール受賞を取材(23頁参照)。目標を立て、やるべきことを明確にしている人は年齢を問わず、聡明さが目や言葉に宿るように感じます。子どもに対するインタビューでも敬語で話したくなるような時があり、その度に宮古の将来は明るいなど思いました。(東)

▼東日本大震災追悼式を取材。私は10年前は宮古にいませんでしたが、市役所に就職し、当時の話を聞く度に想像もできないような苦労があったんだな、と感じていました。復興が進んだ今、支援への感謝と被災に負けず頑張ってきた皆さんへの尊敬の念を改めて抱きました。(二)

▼東日本大震災時、避難所や被災地で奮闘する行政職員、自衛隊、警察などの姿を見ました。そんな人たちの姿を見て、直に、人のためになる仕事があった、と思いついた。今に就きました。震災を通して抱いた思いをこれからも忘れずに前向きに精一杯生きていきたいと思います。(道)



ホームページ
https://www.city.miyako.iwate.jp



マチイロ (iOS)



(Android)